

東京外国語大学 留学生支援の会

No. 28
年3回発行

Since 1999

会報

支援の会 10周年に際し、特別のお願い

支援の会は、日本で学ぶ志を応援し続けます。今回、緊急貸し付け基金拡充のため、特別にご寄付を賜りたく、皆さまにお願い申し上げます。(詳細は3ページ)

Pick Up

留学生支援の会も10周年を迎えました。本年も留学生が喜ぶと同時に有意義な

Message

生活支援等を考えていきます。皆さまのご意見もどうぞ当会へお寄せください。

2008

今回は、ホームビジット&ホームステイ体験記を特集します。(詳細は15ページ~)

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

E-mail tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

INSIDE

Page 1	1. 巻頭言 私の留学体験記
Page 2	2. ご挨拶 10周年を迎えて
Page 3	3. お願い 緊急貸し付け基金へのご寄付のお願い
Page 4	4. 事業報告と事業計画(案)
Page 11	5. 活動報告 5-1 鎌倉見学 5-2 バザー報告 5-3 くらやみ祭り参加報告
Page 15	6. ホームビジット&ステイ 6-1 ホームステイ体験記① 6-2 ホームステイ体験記② 6-3 ホームステイ体験記③
Page 18	7. 会員の声 7-1 会員の声 オマーンの風に吹かれて 赤いバラを愛する国 7-2 会員の声 原の白隠、すでに世界の白隠に
Page 22	8. これからの活動 9. 幹事会

FOCUS

1. 巻頭言

私の留学体験記

—過去と未来を結ぶもの—

外国語学部地域・国際講座准教授

岡田 昭人

今から丁度10年前のことです。当時英国のオックスフォード大学教育学研究大学院に留学していた私は、4年間の学業を締めくくる博士号取得のためのヴァイバ(最終口頭試問)を受け、街の中心にあるイグザミネーション・ホールに向かっておりました。大学内外から選出された2人の試験官から出題される質問に対して、およそ3時間に渡ってがむしゃらに答え、最後に「おめでとう」の言葉を耳にしたときには涙が溢れそうになりました。

私の留学生活は修士課程でニューヨークに滞在していた時期を含めると8年近くになります。様々な国々から集まった仲間達との出会いと別れ、数え切れないほど沢山の思い出ができました。授業や共同生活を通じて大いなる感動を得ると同時に、文化や経験の差からくる習慣や考え方の違いに戸惑う事も多々ありました。

英国留学中のある日のエピソードです。同期の学生仲間達と休み時間に歓談をしていた時のことですが、イギリス人学生が「教育とは何か?」と皆

に質問してきました。アメリカ人学生は「自己実現のためにするもの」と答え、そしてマレーシア人学生は「国のため」、スペイン人学生は「家族のため」等々、色々な答えが聞こえてきました。

私は「将来のため」とこたえました。すると即座に、それは「自分自身の将来」のことなのか、それとも「他者の将来」のことなのか？ 皆々から質問が返ってきて困った記憶があります。

あれから早 10 年の月日が経ち、現在は東京外国語大学で教職に就いております。留学生を対象とした国際教育プログラム (ISEPTUFS) のコーディネーター業務を中心に、専門の比較・国際教育学をはじめ、日本の文化等の科目を教えております。ISEP では留学生と日本人学生が「共に学ぶ」という理念に基づき、授業では学生主体のディスカッションやディベートを通じて相互文化理解に取り組んでおります。最初は緊張して何も言えない学生たちですが、話し合いを繰り返しているうちに自然と打ち解け合い、最終的には楽しんで議論をするようになっていきます。またプログラムが終了し、それぞれ帰国したり、また別の地に移り住んだ後もそこで培われた友情は永く続いていきます。

世界各国からきている学生たちの教育を担当していて切実に感じることは、日本の文化や社会を理解させるためには授業だけでは決して十分ではないということです。本学には留学生支援の会があり様々な文化紹介の催しやバザー、交流会等日常生活を支える諸活動が行われております。ご関心のある方は是非一度足を運んでください、楽しいですよ！

これまでの海外生活から得た様々な経験を活かし、教員としてだけではなく、支援の会の一員としても外語大の留学生教育とその「将来のため」に今後も頑張っていきたいと思っております。



岡田先生（中央） ISEP の学生に囲まれて

2. ご挨拶

10 周年を迎えて

会長 中嶋 洋子

会員の皆さまその後いかがお過ごしですか？ 不順な気候、地球規模の大きな天災の前において人間の小ささを実感すると共に、人類皆が知恵を出し合うことの重要性を強く感じます。

さて、おかげさまで当支援の会も皆さまのご協力を得て、10 周年を迎えました。留学生をいかに支援していくか、その内実をより豊かなものにしていきたいと念じています。率直なご意見、ご教示をお願いいたします。

平成 19 年度の事業報告、決算報告は 4 ページ以降をご覧ください。ここでは 10 年目を迎えた平成 20 年度の計画、新企画などについて触れたいと思います。

1 大相撲初場所見学に替わり歌舞伎鑑賞を！

日本の伝統文化体験事業として留学生に大変好評だった相撲見学でしたが、思い切って歌舞伎を鑑賞（学生対象・説明付き）する計画に替えました。

その理由の第一は、相撲だけが日本の伝統文化ではないので、それ以外の体験の場も必要と判断しました（相撲界が変化しつつあり、佳境に入っていることは充分承知しております）。

第二は、毎年の決算を見てもおわりの通り、相撲見学にはかなりの出費が必要です。

加えて国会見学・江戸東京博物館見学後のちゃんこ鍋を囲む懇親会のような留学生同士の交流、ないしは相撲についての感想や相撲から学ぶ日本文化についての精神的な構築の場がもちにくい（時間的にも更なる出費の面からも）、留学生にとって相撲見学は確かに面白いと思われそうですが“見っぱなし”の感も否めないといった理由から（幹事会でも賛否両論ありましたが）、上記のような結論に至りました。国立劇場での歌舞伎鑑賞後には、隣接するレストランで簡単なお茶とケーキつきの懇親会を予定に入れました。

2 積極的に日本人学生との交流の場を！

かねてより当会は留学生と日本人学生の交流の場をもつべく計画、努力してきましたが、そして両学生たちもみなそのことを強く望んでいるのに、

決して達成されているとは思えないのが現状です。

加えて平成 21 年度に学内 (現図書館脇) に異文化交流施設が建設されること、当会連絡室を現在の“陸の孤島”からの脱出、地理的条件のいい研究講義棟に近いこの新施設への参入を目指しているという状況判断もあります。そのために“留学生と日本人学生との交流会”——留学生による各国のお茶とお菓子の紹介を通して——

上記のような企画を考えています。(詳細は 22 ページ参照)

詳細をご覧くださいればわかるように、今まで行ってきた“各国文化紹介”よりも大規模なものにした、参加国の留学生がその国の言葉で語り、関連語科の日本人学生が通訳をするなど、外語大ならではの特徴を活かし、多数の日本人学生の参加を促すなど当会の大きな行事にしていきたいと考えています。

参考：過去 3 年間の各国文化紹介開催国

第 1 回 (2005/6/23)	イタリア、タイ、トルコ
第 2 回 (2005/12/1)	インドネシア、フランス、 モンゴル
第 3 回 (2006/6/22)	ドイツ、ブラジル、ロシア
第 4 回 (2006/12/7)	イラン、エジプト、レバノン
第 5 回 (2007/6/21)	ウズベキスタン、シリア、 フィリピン
第 6 回 (2007/12/4)	イエメン、コロンビア、 ボスニア・ヘルツェゴビナ

また、亀山学長とご会いして当会の新施設への参入をお願いした時に、学長先生は、新施設の 1 階ホールは常に英語がとびかう留学生と日本人学生の交流の場としたい、とおっしゃっていました。その一角に当会の連絡室の場所をいただければ、留学生と日本人学生の密な関係が日常的に保たれるのではないかと思います。

3 その他

4 月 9 日、大学入学式の後に行われた学生後援会 (保護者の会) 総会の最後に、その席を借りて留学生支援の会への加入をお願いしたところ (この数年毎年会員増加のために行っています)、実に総数 70 名の方々が新規に加入してくださいました。外語大生の保護者の方々の“留学”に対する理解の深さを感じます。この場を借りてお礼申し上げます。(10 ページ参照)

3. お願い

緊急貸し付け基金へのご寄付のお願い

幹事 梅田 由美子

〔今までに緊急貸し付け金のおかげで 243 人も留学生が学業を続けることが出来ました。〕

早いもので、留学生支援の会が発足してから 10 年が経ちました。そして、「緊急貸付金」の制度を開始して 7 年目となります。最初は、160 万円だった貸し付け基金も現在は、491 万円となりました。その間に 243 人も留学生達が学費、医療費、引越、生活費などのためにこの貸付金を利用し、学業生活を継続してきております。これは、一重に会員の皆さまのおかげと感謝致しております。

〔留学生と基金の窮状〕

開始した当初は、返済期限は、原則として 1 年以内ということで運営してきましたが、この数年、奨学金の減少、宿舍の不足、日本経済の悪化によるアルバイトの減少など、留学生にとって厳しい状況が続いていることもあり、返済できる時に返してもらうということでやってきております。しかし、留学生に返済の意志はあっても、事故にあったり、本人や家族が病気になったりと不測の事態が生じて、授業料が払えず休学や退学をするなどで、3 年以上返済が滞っている額が 100 万円近くになっています。

在学中に返せず、就職してから返してくる学生もいますので、その金額が全部焦げ付きになるとは限りませんが、この間運用できる基金が、100 万円少なくなっていることもあって、借用希望に応じられない場合もあります。留学生も基金も窮状にあるわけです。

〔支援の会設立 10 周年に際し、特別のお願い〕

幹事会と致しましては、返済方法を毎月少額でも返してもらうようにし、基金を多くの留学生が利用できるように、回収に努力を続ける所存でおります。しかし、それと同時に、会員の皆さまにはいつもご支援、ご協力を頂いてばかりで心苦しいのですが、支援の会設立 10 年に際して、緊急貸し付け基金拡充のため、特別にご寄付を賜りたく、お願いいたします次第です。

参考： 緊急貸付基金の推移

皆さまのご協力とご支援を改めてお願い申し上げます。

年度	基金総額	貸付件数	貸付総額	年度末の残高
平成 14 年度	160.0 万円	29 件	187.0 万円	75.0 万円
平成 15 年度	256.6 万円	47 件	340.6 万円	159.3 万円
平成 16 年度	281.9 万円	37 件	344.8 万円	27.1 万円
平成 17 年度	321.9 万円	44 件	415.9 万円	3.9 万円
平成 18 年度	461.9 万円	39 件	418.5 万円	105.9 万円
平成 19 年度	491.9 万円	45 件	465.8 万円	26.1 万円

皆さまからの
ご協力とご支援を
留学生の笑顔に
つなげます！！

REPORT



4. 事業報告と事業計画 (案)

4-1 平成 19 年度事業報告

A. 生活援助事業

1. 緊急貸付金を貸付しました

「留学生緊急貸付基金」より、授業料納入等で困窮している留学生に次のように貸付しました。

基本総額 4,919,000 円 貸付件数 45 件
平成 20 年 3 月末現在 貸し出し中の額
4,658,000 円

2. 生活用品・図書を支給するバザーを開催しました

(1) 春期バザー

期日 4 月 23 日～ 27 日
場所 支援の会連絡室
来場留学生 約 250 名

(2) 秋期バザー

期日 10 月 15 日～ 19 日
場所 国際交流会館 2 号館交流ホール
来場留学生 約 300 名

3. 自転車を貸与しました

中古自転車 25 台 貸出し留学生数 32 人

4. 入院見舞金について

入院 5 日以上の留学生 該当者なし

5. 留学生からのいろいろな相談に対応しました

主な相談事項：アパート、交通事故、奨学金、大学（院）受験等

B. 友好親善事業

1. 国際交流の夕べ（留学生交流会）の開催に協力しました [大学主催行事]

期日 平成 19 年 12 月 14 日（金）

場所 学生会館

参加者 留学生 200 名、日本人学生 50 名、幹事 10 名、来賓その他 70 名 合計 330 名

2. ホームビジット・ホームステイを受け入れていただきました

受け入れていただいた会員 15 名

訪問した留学生 41 名

3. 五十嵐脩介協賛会員招待による寿司パーティを開きました

期日 平成 19 年 12 月 14 日

場所 交流会館 1 号館補食堂

参加者 50 名

4. 中嶋洋子会長が留学生を新年会に招待しました

期日 平成 20 年 1 月 2 日

場所 中嶋会長宅

参加者 90 名

5. 富士山バスツアーに参加しました（府中英語クラブ主催）

期日 7 月 15 日

参加者 15 名

C. 相互理解事業

1. 日本理解事業

(1) 文化施設や史跡を見学しました

①国会議事堂・江戸東京博物館の見学と ちゃんこ鍋会食

期日 11月3日

参加者 留学生23名、幹事5名

②大相撲初場所1月場所を観賞しました

期日 平成20年1月27日

参加者 留学生52名、幹事等3名

③鎌倉の史跡見学の日帰り旅行

期日 平成20年3月20日

参加者 留学生46名(家族を含む)、
一般会員5名、幹事4名

鎌倉在住の会員等5名の方が説明・案内を
担当していただきました

④地元のいろいろな行事に参加

・府中市大國魂神社のくらやみ祭

期日 5月4日

参加者 留学生18名

・朝日町夏祭り

期日 8月4、5日

参加者 留学生5名

・多磨駅前商店会祭り

期日 12月6日

参加者 留学生8名

・府中市新町文化センター節分の集い

期日 1月23日

参加者 留学生3名

・紅葉ガ丘文化センターの集い

期日 3月16日

参加者 留学生6名

(2) 日本文化の紹介・体験の教室を開きました

①国際交流の夕べ(日本文化体験教室)の 開催に協力(大学主催行事)

期日 平成19年12月14日

場所 大学会館

種類 華道・茶道・書道・和服着付・
折り紙・墨絵・将棋・囲碁

②日本語広場の開設

期間 平成19年7月～20年3月

講師 6名 受講生 25名

③各種文化教室(主として支援の会 連絡室で)

茶道・華道・書道・囲碁・ギター・
日本料理

④七夕茶会 期日 7月3日

会場 学生会館

参加者 20名

2. 国際理解事業

(1) 各国の伝統的なお茶とお菓子を紹介しました

①第4回

期日 6月21日

会場 交流会館2号室談話室

紹介した国 フィリピン、ウズベキスタン、
シリア

参加者 留学生20名、日本人学生25名、
一般5名、幹事6名

②第5回

期日 12月4日

会場 交流会館2号館交流ホール

紹介した国 ボスニアヘルツゴビナ、
イエメン、コロンビア

参加者 留学生32名、日本人学生6名、
一般9名、幹事10名

(2) 地元中学校の国際理解教育の授業へ留学生を 派遣しました

期日 11月3日 参加留学生6ヶ国6名

11月27日 " 6ヶ国6名

12月3日 " 6ヶ国6名

D. 広報その他の事業

1. 「支援の会会報」を発行しました

No.25 平成19年7月

No.26 平成19年11月

No.27 平成20年2月

2. ホームページを運営しました

3. 会員募集活動を行いました

4. 幹事会を開き、会の運営について相談しました

第1回 平成19年4月22日

第2回 5月13日

第3回 6月10日

第4回 7月29日

- 第5回 10月14日
- 第6回 12月2日
- 第7回 平成20年1月20日
- 第8回 2月17日

4-2 平成20年度事業計画(案)

A. 生活支援事業

1. 生活用品等

- (1) 生活用品・図書のパザー
春季:4月～5月、秋期:10月
- (2) 自転車の貸出し

2. 資金関係

- ① 緊急貸付金の貸与
一件につき10万まで
- ② 入院見舞金
入院5日以上、一人1万円

3. 生活支援のための相談への対応

B. 友好親善事業

1. 大学主催の国際交流の夕べ

- (留学生懇親会の部)への協力
時期 12月

2. 留学生と日本人学生の交流会の開催

- 留学生による各国の伝統的なお茶とお菓子を
通じて—

C. 相互理解事業

1. 日本理解事業

(1) 文化施設等の見学

- 国会議事堂・江戸東京博物館の見学とちゃん
こ鍋会食
平成20年10月
- 国立劇場歌舞伎教室
平成20年7月6日
- 鎌倉見学旅行
平成21年3月

- 地元の各種伝統行事への参加

(2) 文化教室等の開設

- 大学主催の国際交流の夕べ(日本文化体験)
への協力
- 日本語広場の開設
- 各種文化教室の開設(主として支援の会
連絡室で)

2. 国際理解事業

- (1) 会員によるホームステイ、ホームビジットの
受入れ
- (2) 会員による各種交流行事

D. 広報その他の事業

1. 「支援の会会報」の発行

- No.28(平成20.6)
- No.29(平成20.11)
- No.30(平成21.2)

2. ホームページの運営

3. 会員募集のための諸活動等



ご意見、感想など、**会報**への
投稿募集 どしどし
お寄せください

当会へのご意見、ホームビジットやイベントに
関しての感想文など、会報への投稿をお待ちして
おります。お気軽にお問い合わせください。

生活援助事業

- 緊急貸付金の貸付
- バザーの開催
- 自転車貸与
- 入院見舞金の支給
- 相談対応、情報提供

友好親善事業

- 国際交流の夕べ
- ホームビジット・ホームステイの受け入れ
- 寿司パーティ、新年会
- 富士山バスツアーに参加

相互理解事業

(日本理解事業)

- 国会議事堂・江戸東京博物館見学・ちゃんこ鍋賞味
- 大相撲初場所千秋楽の見学
- 鎌倉の史跡・文化財見学
- 地元行事への参加
- 国際交流の夕べ(日本文化体験教室)
華道・茶道・書道・和服着付・折り紙・墨絵・将棋・囲碁
- 日本語広場
- 各種文化教室
茶道・生け花・書道・囲碁・ギター・日本料理
- 七夕茶会

(国際理解事業)

- 各国お茶とお菓子の会
- 地元中学校へ留学生を派遣(国際理解教育の授業)

広報活動他

- 会報の発行
- ホームページの運営
- 会員募集活動
- 幹事会の実施

4-3 資料－会計報告と予算（案）

東京外国語大学留学生支援の会 一般会計収支決算平成19年4月1日～平成20年3月31日

《収入の部》

(単位：円)

科目	項目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金		2,620,643	2,620,643	
会費	一般会員	1,260,000	1,145,000	3,000円×381口+2,000円×1人
	協賛会員	180,000	80,000	20,000×4名
寄付	一般	500,000	884,000	
	緊急貸付基金	300,000	20,000	
その他	バザー等	50,000	119,857	
	利息	1,000	3,266	
収入の部合計(A)		4,911,643	4,872,766	

《支出の部》

(単位：円)

科目	項目	予算額	決算額	摘要
活動費 (友好交流事業)	国際交流行事共催費	400,000	356,000	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	120,000	106,370	鎌倉見学
	日本文化見学費	400,000	359,319	大相撲・国会議事堂・江戸東京博物館
	日本文化体験費	250,000	219,768	華道・書道・茶道・将棋・尺八・ギター他
	各国文化紹介費	100,000	52,071	茶・菓子・料理等
	その他の交流活動費	100,000	16,000	大学主催の諸行事参加等支援 寿司パーティ・アルバイト
活動費(援助事業)	入院見舞金	70,000	—	
活動費小計(a)		1,440,000	1,109,528	
運営費	ホームページ管理費	160,000	158,262	ホームページ管理費10,000円/月・ プロバイダー使用料
	消耗品費	30,000	15,530	自転車修理費・文具等
	備品費	150,000	181,546	パソコン購入・掃除機購入
	通信費	250,000	232,442	会報発送費
	印刷費	270,000	240,828	会報印刷費・会紹介パンフ印刷代・ コピー代
	会議費	5,000	—	
	連絡室運営費	10,000	43,620	連絡室移転時粗大ごみ処理費
	郵便振替手数料	40,000	33,790	
運営費小計(b)		915,000	906,018	
予備費(c)		100,000	—	
繰入金	緊急貸付基金(d)	300,000	300,140	
合計(B)	支出の部合計 (a)+(b)+(c)+(d)	2,755,000	2,315,686	
次年度繰越金(A)－(B)		2,156,643	2,557,080	

(A)－(B)＝4,872,766－2,315,686＝2,557,080円は、平成20年度へ繰越
会費1,145,000円は、20年度7名分・21年度1名分を含む

東京外国語大学留学生支援の会 平成 20 年度一般会計予算 (案)

《収入の部》

(単位：円)

科目	項目	予算額	摘要
前年度繰越金		2,557,080	
会費	一般会員	1,290,000	3,000 円× 430 名
	協賛会員	100,000	20,000 円× 5 名
寄付	一般	500,000	
	緊急貸付基金	300,000	
その他	バザー等	100,000	
	利息	3,000	
収入の部合計 (A)		4,850,080	

《支出の部》

(単位：円)

科目	項目	予算額	摘要
活動費 (友好・交流事業)	国際交流行事共催費	400,000	伝統文化体験費・交流会費 (大学との共催)
	史跡見学費	120,000	鎌倉見学
	日本文化見学費	200,000	歌舞伎・国会議事堂・江戸東京博物館
	日本文化体験費	150,000	華道・書道・茶道・将棋・尺八・ギター・日本語広場他
	各国文化紹介費	200,000	茶・菓子・料理等
	その他の交流活動費	50,000	地域の諸行事参加等支援
活動費 (援助事業)	入院見舞金	70,000	
活動費小計 (a)		1,190,000	
運営費	ホームページ管理費	170,000	ホームページ管理費 10,000 円/月・プロバイダ使用料
	消耗品費	30,000	文具等
	備品費	30,000	電気ポット・耐熱ガラスポット・カセットコンロ
	通信費	250,000	会報発送費
	印刷費	270,000	会報印刷費・会紹介パンフ印刷代・コピー代
	会議費	5,000	
	連絡室運営費	10,000	
	郵便振替手数料	40,000	
運営費小計 (b)		805,000	
予備費	(c)	100,000	
繰入金	緊急貸付基金 (d)	300,000	
支出の部合計 (B)	(a)+(b)+(c)+(d)	2,395,000	
繰越金 (A) - (B)		2,455,080	

※次年度への繰越 2,455,080 円

4-4 緊急貸付基金の現状について

以下、平成19年度特別会計のご報告をします。

平成19年度特別会計報告（平成19年4月～平成20年3月）											
留学生緊急貸し付け基金総額	4,919,000円 (昨年度基金4,619,000円+会員の方からの寄付300,000円)										
現在貸付総額	4,658,000円 (19年度に貸与した額3,018,000円)+19年度以前に貸し出した額1,640,000円)										
貸し付け件数	45件(19年度に貸与した件数34件+それ以前11件)										
今年度貸し付け理由	<table border="0"> <tr> <td>授業料入学科</td> <td>12件</td> </tr> <tr> <td>研究調査費</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>引越し</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>生活費</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>医療費</td> <td>1件</td> </tr> </table>	授業料入学科	12件	研究調査費	6件	引越し	9件	生活費	6件	医療費	1件
授業料入学科	12件										
研究調査費	6件										
引越し	9件										
生活費	6件										
医療費	1件										
残 金	261,000円(平成20年3月31日現在)										

新規にご入会いただきありがとうございます

次の方々が新規にご入会くださいました。

今後の活動への参加や、支援の会へ忌憚のないご意見をよろしくお願ひ申し上げます。

平成19年度新規入会者 (平成20年2月11日～平成20年3月31日) *敬称略 金田禎泰

平成20年度新規入会者 協賛会員 (平成20年4月1日～平成20年5月16日) *敬称略 米田耕一郎

平成20年度新規入会者 (平成20年4月1日～平成20年5月16日) *敬称略、50音順

芥川博子、安藤真由美、飯沼恵美子、池田弘子、池田美智子、石坂欣也、石山陽一、磯崎晃、板垣和芳、一条初枝、今中秀美、植野壽康、牛尾雅則、大西初美、岡田亨嗣、小片学、岡本操、金子善行、川島清、菊池俊宏、久保豊年、才田豊美、齋藤嘉頭、崎野はる代、佐竹悦子、佐藤眞澄、柴崎雅子、芝田瞬、柴田勝二、高木幸子、高橋一清、高橋恵子、高橋準一、高橋光代、高橋恵、武田忍、田代久美恵、多田茂、辰見英津子、田辺いづみ、東原勇二、津吉真穂子、寺岡正文、外池喜代二(麻衣)、中澤通太、長島寿勝、中西学、奈良春夫、西川かの子、西村由美、濱野隆、深澤剛司、藤井隆雄、藤井千春、松川達也、松村一成、水野ゆかり、村田憲保、村野芳樹、村松修子、八十嶋明子、山下眞志、山本弘子、吉田恵一、吉田二郎、吉村眞澄、呂科林(友莉)、渡辺恵子、渡邊徹、渡辺尚子、渡部正一

ご寄付の御礼

ご協力いただき、ありがとうございました

(万一、お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その場合は当会までお知らせくだされば幸いです。)

次の方々からご寄付をいただきました。ご協力いただきまして、ありがとうございました。略儀ながら、本会報にて深くお礼申し上げます。

平成19年度会員寄付者 (平成20年2月11日～平成20年3月31日) *敬称略、50音順

金子眞也、小磯好成、小宮山讓、下田菊美、松下宗柏

平成20年度会員寄付者 (平成20年4月1日～平成20年5月16日) *敬称略、50音順

芥川博子、佐竹悦子、高橋準一、東原勇二、古川早紀子、吉田恵一、吉田二郎、呂科林(友莉)

REPORT

5. 活動報告



5-1 鎌倉見学

鎌倉散策の一日

会員（鎌倉在住） 野中 千恵子

今年はいくまでで最大の61名が参加ということで、はりきって準備を進めました。暖かく快晴の春の日がずっと続いていたのに前夜から雨になり、当日の天気予報は一日中雨、強風、寒気と最悪です。朝にはスタッフの一人から、今日は中止ですか、と電話が入る始末でした。でもさすがは若い方たちで、51名が雨の鎌倉駅に降りたちました。

世界遺産をめぐす中世武士の都市鎌倉について解説・案内を聞いたあと、鎌倉の中心鶴岡八幡宮、いくつもの伽藍が並ぶ建長寺、露座の大仏、花が咲き海が見える長谷寺とほぼスケジュールどおりに見学しました。

昼食は八幡宮近くのレストランで例年、ロースかつ、えびフライ、天丼から好きなものを選んでいただきます。それぞれに味噌汁、青菜のゴマ和え、つけものがつきます。今年はいくまでベジタリアンの方たちのために精進揚げの天丼も用意しました。この日はイラン暦の元日にあたるようで、イラン留学生の2家族11人が参加され、一緒にテーブルをかこみました。ご家族の年配のお父さん、お母さん、男のお子さん2人、にぎやかな蒙古からの留学生10人に各国の留学生が入り交じって多彩なグループになりました。雨の日の恩恵もあるもので、春分の休日は観光客で歩くのもたいへんな寺社の境内は閑散としていて本来の雰囲気味わえるし、移動の江ノ電は全員座れるし、雨にぬれてしっとりとした花の風情もよいものでした。解散前のあいさつでガイドの望月さんが、「今日は春から冬に戻ったような日でしたが、みなさん楽しんでいただけ

ましたか」と問いかけると、ハイと元気な返事がかえってきました。

雨の中、いざ! 鎌倉へ

会員 北村 みどり

娘の外语大入学を機に、留学生支援の会に入会させていただいて丸2年になります。

行事への参加は始めてで、久しぶりの鎌倉を楽しみにしておりました。しかし・・・、3月20日の祝日、当日は朝から無情の雨。午後からの晴れを期待しつつ、朝早く新宿駅に集合致しました。皆、眠い目をこすりながら、さまざまの国からの留学生が、三々五々集まり、いざ! 鎌倉へ出発です。私は留学生という事で、勝手に二十代の若者ばかりを想像していたのですが、ファミリーの参加もあり、お子さんからお父さんお母さん世代まで、とても賑やかな顔ぶれになりました。こういった面からも支援の会は、留学生の生活において、ずいぶん貢献しているのだと思います。

新宿から小田急線で藤沢経由、江ノ電に乗り、鎌倉に着きました。電車も比較的空いていて、皆和気あいあいと、今から始まる鎌倉の小旅行を楽しみにしているようでした。しかし、外は雨、以前何かの映画に出て来た江ノ電から見える景色もかすんでいました。

鎌倉駅に到着すると、既に鎌倉在住の会員の方々が迎えに来て下さっていていろいろと鎌倉の説明が始まりました。とても慣れていらして、留学



留学生と留学生たちを優しく見守る鎌倉大仏!

生もわかり易かったと思います。役員の方もそうですが、鎌倉の方々も皆さんボランティアでお世話下さっています。支援の会はこういったボランティア精神によって支えられているのですね。

見学はまず、有名な鶴岡八幡宮から始まりました。本当ならこの時期は観光客でごった返しているようですが、雨のため空いていましたので、ゆっくり見ることができました。

当日雨に加えて困ったのは寒さでした。今回アジアからの留学生参加者が多いようでしたし、薄着の女子学生も数名いて、風邪をひかないかと心配でした。しかし、雨と寒さに耐えながらも皆楽しそうに、建長寺、亀ヶ谷を巡り、待ちに待った昼食タイムへ・・・。

お店に着くとすぐにお昼ご飯が用意されていて、おいしく頂きました。留学生も充分満足したようです。午後は歴史の重みを感じられる道を歩いて、長谷寺と大仏の見学でした。やはり鎌倉といえは大仏という事で大仏の前で皆で記念撮影をし、例年ですとこの後、希望者は江ノ島見学の予定でしたが、雨がますますひどくなり、海の近くは危ないとのアドバイスで、皆鎌倉から家路に着きました。

結局、一日中雨と寒さにたたられてしまった日帰りの鎌倉の旅でしたが、留学生たちはそれぞれ思い出を作ってくれた事と思います。

そしてトラブルもなくスムーズに進行出来たのも役員さんや鎌倉の会員のお骨折りに他なりません。これからの支援の会が留学生にとって、生活面でも精神面でも、大きな支えになる事を願っております。それぞれの国の将来を担う若者達の為に、私も、ほんのわずかな力ですが、支援の会を通して少しでもお役に立てればと思っております。

KAMAKURA

ゴルモハマディ・アリ (イラン)
大学院博士後期課程

Regarding cultural differences, it is not easy to get familiar with the cultural history of other nations just by reading academic books. Sometimes, physical presence and close study of a nation's culture will be more useful. Besides reading historical books, surveying historical documents, referring to museums and visiting historical buildings are the other good methods.

As I was interested in Shogunate system ? specifically Edo era ? to know more about the origins of warriors (Samurai) state in Japan was very helpful to me.

Of course, we had already visited Kamakura which is called the Kyoto of eastern Japan. But visiting all numerous temples, shrine and other historical monuments in a one day group tour was impossible. We were, however, lucky enough to take the tour which was well-organized by kind organizers at TUFFS.

It was a good opportunity for me to visit Kamakura more accurately this, together with my wife's family who had traveled to Japan and was willing to visit the historical monuments of Kamakura based on what we had explained to them. Unfortunately that day was rainy and was not sunny as we expected.

Any way, well-scheduled and organized tour besides concise and useful information and explanation about large bronze Buddha statue, Hasedara Temple, Hachimangu shrine, Engakuji temple,... was very nice although because of bad weather, could not walk on beautiful beaches of Kamakura.

Ancient historical monuments there, can illustrate the social situation in that era very well. In most ordinary Iranians' opinion, Japan is well-known by "Oshin" TV drama which has occurred in samurai era. It shows how important it is for Japanese to emphasize on historical roots, values and traditions which is a vital point for their future generations. My wife's family also reminded the scenes of Oshin drama by visiting the historical monuments. Eating traditional and delicious Japanese food (Tempura) which is very close to the Iranian taste was another factor which paved the way to feel at a traditional atmosphere.

Coincidence of Iranian New Year "Nowrooz" with that day and joining us to our simple celebration by some kind organizers of the tour was another happening which made us happy.

Because of rainy weather, it seems the tour was shorter than the last year one however it was very interesting to us and my wife's family.

Thanks to the organizers, I hope we are

lucky enough to take part in other programs in future.

(以下、要約)

学術的な本を読むだけで他の国の文化・歴史を知ることは、そう簡単ではない。時には、その国の文化に近づき、体験することが大変有効だ。歴史の本を読むだけでなく、歴史文献を調べ、博物館・歴史館を訪ねることもいい方法だ。私は、将軍制度、特に江戸時代に興味があるので、武家国家の起源について知ることは、私の研究に大変役に立つ。

もちろん私たち夫婦は、以前に東日本の京都と呼ばれる鎌倉を訪ねたことがある。しかし多くの寺社や史跡巡りの団体旅行はしたことがなかった。でも今回、幸運にも大学の支援の会によるきちんと企画されたツアーに参加できた。

私にとってさらに幸運なことは、たまたま日本に旅行に来ていた妻の家族も、行きたかった鎌倉に、私たちと一緒に参加出来たことである。残念なのは、その日が雨だったことである。

とにかく、訪ねる場所、長谷寺、大仏、八幡神社、円覚寺などについての、事前に正確で役に立つ情報を得ることが出来、十分な説明を受けての鎌倉旅行は、悪天候で、美しい海岸を歩けなかったのはとても残念だったが、それにも関わらず、とっ

てもすばらしかった。

史跡は、その時代の社会的状況をとってもよく物語っているものである。ほとんどのイラン人は、有名なテレビドラマの「おしん」で日本を知っているが、それは武士の時代の話である。日本人は、歴史的根源、価値観、伝統に重きを置くが、それらは、次世代にとって重要な部分である。私の妻の家族も鎌倉の遺跡を見て、「おしん」のドラマを思い出した。伝統的なおいしい料理、(イランの味に似ているが)天ぷらを食べることは、伝統的雰囲気を感じるもう一つの確実な方法である。

その日は、たまたまイランの正月で、支援の会の人たちも一緒に祝ってくれたことは、私たちにとってハッピーなことであった。

雨のため、旅は去年より短かったが、私たち家族にとって、とっても興味深かった。

又次のこういうプログラムに参加できればうれしいと思う。

Kamakura



何を願っているのでしょうか？鎌倉は、緑も多く、母国を思い出すという留学生も多いようです。

Spring 2008

バザーへのご協力ありがとうございました

4月期バザーを開催しました

Special
Thanks!

去る4月21日(月)～25日(金)の5日間開催致しました留学生支援のためのバザーには、様々なバザー用品をご寄付いただき、ありがとうございました。各種辞書、書籍、電気釜、レンジ、温風器、トースターなどの電気製品、寝具、衣類、台所用品、タオル、石鹸、洗剤などの日用品、衣装筆筒、旅行鞆、ノート、便箋などなど、すべて留学生が必要とするものばかりでした。今回も、寝具類の寄付が多くありました。

今年も、昨年同様、第一日目は開催時間前から入り口で待つ留学生もあり、開始と同時に部屋一杯に留学生が集まり、大にぎわいでした。大型電気製品は、(500円)以外はすべて100円以下、書籍は無料としました。いつものことですが、電気製品、寝具類は人気があり、ほとんど1日目になりました。バザーに集まった大半の留学生が来日したばかりでしたので、様々な日用品が喜ばれました。一日5点までとしましたが、ほとんど毎日着ては、バザーを楽しみながら必要品を選択し、品物を持ってうれしそうに帰って行きました。

送っていただいた沢山の品物も、金曜日にはほとんどなくなりました。留学生たちは、「どうしてこんなに安いの?」「ただで良いんですか」「電気釜が欲しかったんだ、ラッキー!」と喜んでいました。支援の会の皆さん、ありがとう!これからもよろしく!と、口々に言って帰って行きました。

また今年の10月に、同じような形で10月入学者のためのバザーを行う予定ですので、これからもよろしくお願いたします。(詳細は別紙)

バザーの収益金は、約4万円でした。ご協力ありがとうございました。

5-3 くらやみ祭り参加報告

府中 大国魂神社 くらやみ祭り

幹事 杉森 弘子

総勢19名で恒例のくらやみ祭り2日目を見学。4班に分かれ、各ガイド(府中観光情報センターの方々)の引率で府中駅から出発しました。櫛並木で、丁度、万灯大会の最後の舞を見ることができました。色鮮やかな花々で飾られた万灯をくるくる回しながら上へ下へと1人で所作をする見事さに皆見とれたり、写真をとったりして楽しみました。

大鳥居をくぐると参道の両側に屋台が出ていて、人々もぎっしりでなかなか進むことが困難でした。簡単な神社の配置図とそれらの説明が書かれた案内書が配られ、ガイドの方の案内で本殿にある各

町のお神輿が揃っているのを覗いたり、千年余も生きている銀杏の木に手を触れてみたりしました。

花のついた2米もある万灯を崩したのを皆もらい、大切に持ち歩いて見学をしました。本町の休憩所で子供神輿を囲み半纏を着て記念撮影をしました。お茶を頂戴し休憩。その後、お神輿の御旅所と高札場を見物し、甲州街道を通り櫛並木のフォーリスで解散となりました。

以下、留学生たちの感想です。(抜粋)

祭りで一言 「日本の伝統的な祭りは見たことがないので、とてもいい勉強になりました。」

ワッショイ!

祭りで一言 「万灯を始めて見ました。万灯の一部をもらったので部屋に飾るつもりです。」

ワッショイ!

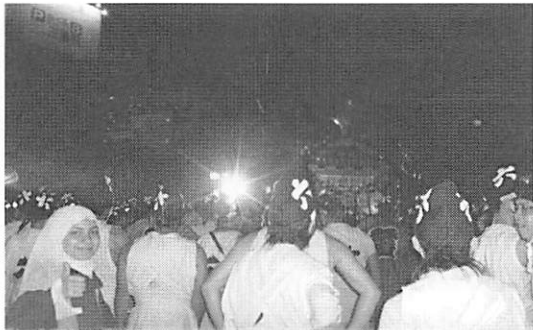
祭りで一言 「今まで見なかったことを体験させていただいてほんとによかったです。素晴らしかったです、日本に来てよかったです。みなさんありがとうございました。」

ワッショイ!

祭りで一言 「今回、祭りに来てすごい勉強になりました。いろんな神様のいらっしゃる場所も見たいし、千年も生きている杉の木もあって素晴らしいと思います。」

ワッショイ!

加えて、上記のように昼間、くらやみ祭りの概要を知り、その様子に魅せられたブラジルのゼイナブさんは、幹事協力者の前川浩子さんに夜間にも連れて行ってもらい、くらやみ祭りの真髄を見学するチャンスを得ました。



「暗闇でも、私写りますか？」

パレードの中の伝統

ハッサン・ゼイナブ・ガマル(エジプト)
ISEP

授業の後帰る時、一階の連絡室にはってあったお知らせを読んだ。ボランティアの人が5月4日に暗闇祭に行きたい留学生を連れて行って、祭りのことを教えてくれると言うお知らせだった。日本の祭りに興味があるので、すぐに申し込んだ。最初本当に私はお祭りについてよく分からなくて、それから色々な疑問があった。つまり、暗闇祭はどんな祭りかと、なんでこの祭りの名前に暗いと言う漢字をつけたかとか・・・。

5月4日の1時半に他の留学生とボランティアの人とこの祭りに行った。着いた時、本当にびっ

くりした。なぜならそんなに大勢の人がいるとは思わなかったから。それから、4時までボランティアの人がお祭りについてたくさん教えてくれた。その後日本人の友達と一緒に見た。夜もすごくきれいなパレードがあった。そのパレードの中で人々は伝統的な踊りを踊っていた。

それから次の日、友達と一緒に神社に行って、写真の中で私が着ているような特別な服を着させてもらって、神社に入った。神社から日本人が8台の御輿を運んで出して、それから、私達もこの後ろに続いて歩いた。その御輿の中には女だけがかつがれている物や男だけによる物もあった。

外国人として、この祭りは私にとってすごくいい体験だと思う。エジプトには神社が全然なく、このような祭りを見たことがなかったので、私にとってすべて新しく、面白かった。この祭りを通して、日本の社会の習慣と文化についてももっと分かるようになった。

EXPERIENCE



6. ホームビジット&ステイ

6-1 ホームステイ体験記①

二人の留学生のホームステイを引き受けて

大場 岱介・靖子(静岡在住)

三月末、突然従姉妹に依頼され、トルコのチュチェさんと中国の李春嬌さんの二人の留学生のホームステイを引き受けました。

初めてのことでしたので、二人に会うまでは不安な気持ちがありましたが、迎えて数分もすると、すっかりうち解け、それまでの不安が一掃されました。何よりも言葉の心配が無く、二人の気取らぬ明るい性格と優しい心根がそうさせたようです。二人は、好奇心旺盛で、何事にも興味を示し、感動を心身から表現していました。知識が豊富ということもあると思いますが、豊かな心がすてきでした。

私達は、たちまち友人となり、また、四日間のホームステイの間には、親子のような間柄になってしまいました。受け入れた私たち二人は、久しぶりによい刺激を受け、彼女達から多くのことを学び

ました。楽しい時間を過ごすことができました。

二人の滞在中、私たちは普段通りの食事を用意し、特別のおもてなしはしませんでした。最後の夜に知人宅に招待され、ごちそうを頂きましたが、知人の家族も大いに楽しみました。何よりも小さな子供達は、外国の人に会ったこと、外国語を覚えたこと、サインをもらったことがとてもうれしく、自慢にしているようです。

二人と再会を約束してお別れをしましたが、今は、少し寂しい思いをしています。



河津桜のトンネルにて

お父さん、お母さんの周到な心遣い

李 春嬌 (中国)

日研生

この間、トルコのチューチェさんと静岡の清水町へホームステイに行きました。お父さんとお母さんは、ホームステイを引き受けたこともない上、私たちの日本語は下手であるにもかかわらず、楽しく過ごせただけでなく、動植物の話聞かせて頂いて、いい勉強にもなりました。すべては、お父さん、お母さんの周到な心遣いのおかげです。この機会を借りて、もう一度有り難うといたいのです。

お父さん、お母さんは、富士山の麓にある、清水町に住んでおり、富士山の雪が解けてわき上がった水を飲み、山からとれた農産物、川から頂いたお魚を食べ、とても自然に恵まれた生活を送っているのです。心優しいです。その優しさのおかげで静岡の旅は、一生忘れられないものになりました。食生活だけでなく、こんな美しいところに暮らしているお父さんは、動植物に興味があり、何年も一日のように動植物を観察してきて、それを自分で彫刻したり、絵を描いたり、本と日記を書いたりして、自分の目を通して自然の美しさと動物の可愛さを語っています。これはお父さんが大好きな静岡県でなければ、できないことです。

そして、家の近くにない珍しい植物を楽しむために、わざわざ遠くまで行って観察したり、スケッチするのがお父さんのもう一つの趣味です。しかし、観察したり、絵を描いたりするのは、二、三十分ではできないことです。真面目にやると二、三時間経ってしまいます。でも、お母さんは一言も文句を言わずに自分で休んだり、歩いたりして時間をつぶして、お父さんを待ってあげます。こういうお母さんがそばにいてくれたからこそ、お父さんは注意を集中して色々な絵を描けたのです。

お母さんは栄養士であり、いつもバランスのいい食事を作るから、お父さんはとても丈夫そうです。代わりに、お母さんは足が不自由なので、お父さんはよく買い物をしたり、車でお母さんを送ってあげたりしてきました。二人はこのようにしてお互いに面倒を見合いながら、のんびりしている豊かな生活ができました。お母さんは専業主婦といっても、人形を作ったり、蔓細工をしたりして、とても楽しそうな生活をしています。今、お父さんは定年で仕事を辞めてますから、朝晩モモター犬を散歩に連れて行ったり、たまにドライブに行ったり、写真を撮ったりして元気にしています。幸せだなーと思います。

この間、お父さんから絵はがきが来ました。自分が書いた絵で作った絵はがきでした。いくら高い絵はがきよりも、お父さんの心のこもったこの絵はがきを私は大切にします。

今度の静岡の旅は、本当に色々と考えさせられました。将来、お父さん、お母さんのように、自分の趣味を持ち、もっと人生を豊かにしたいです。お父さん、お母さんのような人生を送りたいです。そして、将来主人と愛し合い、お互いの面倒を見合いたいです。他人にできる限りのことをしてあげたい、二人が、私たちのような、知らない外国人に対してしてくれたように、優しくしてあげたいと思っています。



6-2 ホームステイ体験記②

春の山菜はいかが？

幹事 井上 久美子

ウズベキスタンのジャムシド君とブラジルのセザレ君を連れて長野県蓼科高原にて3泊4日の旅をしてきました。山を散策し春の山菜(フキノトウ、

タラノメ、ヨモギ、ミツバ、セリ、クレソン)を摘み、夕食にはそれらを天ぷらやサラダにして食べました。

同行した私の友人に香道(源氏香の略式)を教わり、温泉にも入り楽しい休日をご過ごしました。

自然の中でゆっくりとしたときを過ごしました。ジャムシド君は1人でカメラを持ち散歩をしながら日本にきてから今までのこと、今後のことも考えられたようです。ゼザレ君はICU大学院の入試、卒論提出を控えていましたが、静かなところで勉強がはかどったようでした。そしてリフレッシュできたこと、喜んでいました。私たちも異文化交流を楽しみました。

以下、ジャムシド君からの感想です。

色々なインテリジェント人と・・・

ジャムシド・ズファロフ(ウズベキスタン)

ISEP

私はゴールデン・ウィークにはじめて日本の家庭はどうなのかなと思って、日本の HOMESTAY PROGRAM に参加してみました。参加できてすごく良かったと思います。

私は日本人のお父さんとお母さんができてとて



初めての体験—お父さんと夕食の準備

も嬉しいです。HOMESTAY の所、たてしなにある山荘に行って、日本の素晴らしい自然を見ることができました。たてしなに色々な思い出になる事がありました。馬に乗るのも私のはじめての経験でした。はじめて香道を体験しました。HOMESTAY の時、色々なインテリジェント人とお話することができて、自分ももっとインテリジェントな人になりたいなと思って、本を読んだりして勉強し始めました。私はお父さん、お母さんに色々お世話になりました。感謝します。

どうもありがとうございました。これからもよろしくお願いします。



6-3 ホームステイ体験記③

留学生の座禅体験

会員 長興寺住職 松下 宗柏

今回、「東外大留学生支援の会」から送られて来たカードの一枚に、「希望すること、座禅」とあった。留学生を受け入れて五年目になるが、これは初めてのことである。滞在した四日間、ヴァレンティーナさんの希望もあって、毎朝七時半から一時間余り、座禅の実習が日課となった。

そして、京都・奈良・広島への旅立ちの前夜、「私の座禅体験題する感想文を求めると、彼女たちは快諾し、日本語のレポートを一晩で書き上げてくれた。漢字を駆使した美事な文章は舌を巻くばかりであった(原文より一部抜粋)。

日本に来てぜひやりたかったこと

ヴァレンティーナ(ロシア)

ISEP

私は、大学二年生の時から日本語を勉強し始めて、禅と禅に関係がある芸術についての本を



座禅を体験する留学生

読みました。その頃から禅の世界に興味を持っています。私はずっと前から座禅をやってみたかったのですが、ロシアではその機会がありませんでした。ですから、日本に来てぜひ座禅をやりたかったのです。

初めて座禅してびっくりしました。座禅はスポーツと似ていると感じました。すぐに気分がよくなったのです。背中も痛くなくなったし、呼吸もしやすくなった・・・ヨガと似ていると思いました。座禅をして新しい世界を発見したと言えます。これから日本の文化をより良く理解できるかもしれません。

自分の奥まで辿り着くこと

エレーナ (ロシア)
日研生

二年前、金沢に滞在した時、永平寺を訪れたことがありました。初めて禅宗僧侶を見ました。毎日、座禅をしながら、安らぎに満ちたお寺に住んでみたいと思いました。今回、短い期間でしたが、お寺で過ごすチャンスが得られ、とても嬉しかったです。「禅堂の雰囲気、お線香の香り、心に沁みる鈴(りん)の音・・・不思議な世界はココにある」と。人はいつも忙しくて、用事が一杯あって、「生きる」ことを感じないぐらいです。

座禅をする時、一瞬に止まって日常生活の問題に溢れる頭や心を洗って清新にします。座禅が好きなのは、頭が空っぽになることです。もちろん、最初は迷惑な思いが多く浮かんで来て集中するのは、なかなか難しいです。でも、その思いをだんだん捨てて、呼吸を調節したら本当に素晴らしい状態になります。

自分の奥まで辿り着いて、この世とのつながりを実感しているようです。四日間座禅してみたら、ちょっとした変化に気がつきました。これからは、もっと自信を持って、細かいことに悩んだり、くよくよしたりすることは、少なくなってゆくと思います。

また続けたい気持ち

ハイディ (エジプト)
ISEP

私は座禅について、何も知りませんでした。座禅に出会う前、時々、自分の生活について考えたり、人間の世界について考えたことはありますが、宇宙について深く考えたことがありませんでした。

座禅をした時、他の人について考えないで、自分と宇宙についてでした。自分が一人でなくて宇宙といっしょという感じがありました。頭が静かになって、自然の音が聞こえるようになりました。ゆっくり呼吸して、数字を数えて、リラックスすることは大切です。肩の力をぬいて背中を伸ばして、いい気持ちです。もし、足のしびれがなかったら、どうでしょう。もっと集中できるようになるかも知れません。座禅は単に座り方だけではなく、生き方だと思います。さびしい時、悲しい時、心配している時、座禅したら全部の世界が大丈夫

になります。

東京に帰ってからも続けたいと思います。



HOME VISIT & STAY

ホームビジット、ホームステイ受け入れに関心のある方はぜひ、当会にお問い合わせください。

VOICE II



7. 会員の声

7-1. 会員の声

オマーンの風にふかれて (抜粋)

—オマーン友好協会に招待され日本の華道を紹介—

華道同好会講師 佐野 裕美子

白い建物

青い海

オマーンはとても美しい国でした。

オマーン在住の日本人女性、スワーダ・アル・ムダファーラさん(旧名・森田美保子)、この方のお姉さまが私の社中におられます。

スワーダさんは、雑誌『ニューズウイーク』(2006年10月18日発行1025号)の「世界が尊敬する日本人」の筆頭に掲載された方。ご苦勞の末にオマーンにアザン・ビン・ケイス私立学校を設立された方です。

お姉さまの呼びかけで、昨年の初釜にスワーダさんと若いご主人(アハメッドさん)がわが家にみえました。

アハメッドさんがとてもお茶を気に入ってくださり、お手前まで挑戦なさいました。

こんな経緯がありまして、スワーダさんが(華道を含め、日本文化紹介を)企画され、オマーン日本友好協会が(私たちを)呼んで下さったのです。

私と私のお茶のお弟子さん二名、お花のお弟子さん二名(一名は東京外国語大学生)。日本文化紹介は、オマーン・ツーリズム・カレッジ(観光大学)

で行われました。

博物館のような大きな門を入ると中庭。お花が咲き、噴水があって公園のようです、そこを歩いて白い大きな講堂に入る手前のエントランスホールに茶席を作りました。野点傘を開き、緋毛氈を敷き、竹を矢来に組み、...が、言うは易しで、エントランスホールは大理石、竹が滑ってしまいうまく三本を組み立てるのにお茶のお弟子さん懸命。扉の端近くにいけ花の体験コーナーも作りスタンバイオーケーです。

お客様は観光大学の生徒さん、スワードさんの学校の生徒さん、オマーン観光協会の方々、何百人くらいだったでしょう。

(お茶やお花以外に)壇上でのパフォーマンスは、W大学生たちの長唄と踊り、おんでこ踊り、そしてソーラン節。

私は(茶道、華道に加え)スワードさんの学校の生徒さんに着物の着付けもしてあげました。恥ずかしそうな彼女たちの姿に大歓声がおこりました。

いけ花は簡単な盛花のデモンストレーション。茶の湯は壇上で点てた抹茶を友好協会の事務局長さんに飲んでいただき「グッド」という言葉を頂きました。

パフォーマンスが終わり、しつらえた茶席に大勢のお客様。友好協会のご婦人方がこぞってみえ、オマーンの男性と結婚なさった日本女性達です。でなつかしさがあって抹茶を飲んでくださり、学生達は興味を持って集まって来ましたが、持参した和菓子はニコニコと食べて、抹茶の味には少し驚いた様子。ただ、あまりの忙しさに、色々な方の感想を伺っている余裕がありませんでした。が、私達、五人で力を合わせ、日本の伝統文化の茶道、華道を精一杯アピールしてきました。

オマーンの皆様

ショッコラン(ありがとう)そして ハンデレラ
(皆さんに幸せを!)

(追記)

佐野裕美子さんは、上記オマーンでの体験を含め、中学校時代からお茶と共に歩んだ半生をもとに1冊のエッセイ集として纏めたものを、文芸社(エッセイ部門)に応募、この度上梓されることになりました。興味のある方はどうぞご覧ください。



.....
刊行本ご案内
.....

著書名 『お茶ってお茶目』
出版社 文芸社
発行日 8月5日(予定)

上:丁寧に説明を加えながら生け花を披露する佐野講師
中:オマーン友好協会の方々によるファッションショー
下:苦勞してやっと仕上げた茶席

以下、オマーンの週刊誌『ワイ』掲載記事
(1月22日号)と要約をご紹介します。

Ikebana gladdens the heart

The Oman Tourism College played host to a unique Ikebana session last Sunday.

This exquisite art of Japanese flower arrangement was laid bare by Japanese experts, who, with their expertise, enthralled the attendees at a packed hall at the college.

The event proved to be a great hit and captivated the hearts of everyone present, which included the guests and students from the Oman Tourism College, Sultan Qaboos University, and Azzan bin Qais Private School, Waseda and Tokyo University and Tokyo University of Foreign Studies' students.

"Unlike the massing of blooms of flower arrangements in western countries, Japanese flower arrangement is based on the line of twigs and/or leaves, filled in with small number of blooms," Suad Mohammed Al Mudhaf-

far, founder and principal of Azzan bin Qais Private School, said.

“The unique arrangement itself denotes peace and happiness and viewing this distinctly unique flower arrangement gladdens the heart,” she noted.

(以下、要約)

オマーン ツーリズム カレッジはめずらしい生け花のセッションを昨週日曜日に開催しました。

このすばらしい芸術である日本のフラワーアレンジメント(生け花)は、日本人の専門家によって発表されました。彼女らの専門的な技術は、大学の講堂にてたくさんの聴衆を魅了しました。

そのイベントは、オマーン ツーリズム カレッジ、サルタン カブース 大学、アザン ビン クアイズ プライベート スクール、早稲田大学、東京大学、東京外国語大学らの参加者と生徒たち、全員の心をひきつけ、大変な成功をおさめることができました。

「西欧のフラワーアレンジメントのように花が固まっているものとは異なり、日本の生け花は、基本的に枝の線や葉、少ない数の花によって構成されます」とアザン ビン クアイズ プライベート スクールの創設者であり校長のスアド・モハメド・アル・ムダファー女史が言いました。

「また、こうした(日本の)大変興味深い生け花は、平和と幸福をもたらします。そして、こうした本物の生け花を觀賞することは、(私たちの)心を喜ばせてくれるのです」と彼女はつけ加えた。

(同行記)

赤いバラを愛する国

大学院博士前記課程1年 掛本 繭子

「バラだよ、赤いバラ。オマーンの人たちはそれが「花だと思っている」—「この国の人たちはどんな花が好きか」と聞くと、オマーンの花屋さんはこう答えた。

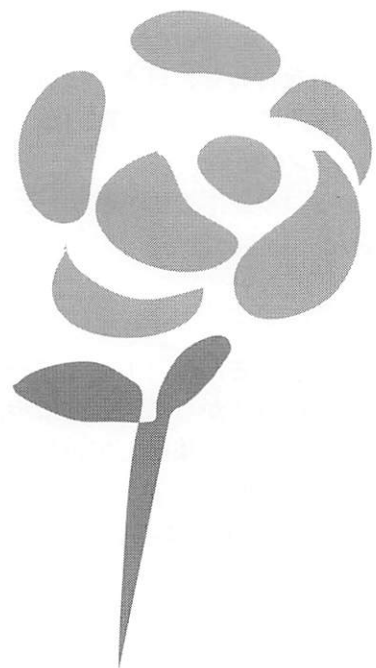
オマーンという国で「いけ花」を紹介するお手伝いをさせていただいた。オマーンの学校で日本とオマーンの文化交流イベントが行われたのだ。このエピソードはその準備の為、オマーン的首都マスカットでも数少ない花屋さんを訪れたときのものである。実際イベントでオマーンの学生は赤いバラ以外の花に対してはあまり興味を示さなかった。やはり彼らにとって「花」とは赤いバラの花のことであるようだ。これにはおそ

らく二つの理由がある。一つは「赤いバラ」がオマーンの国花であるということ、そしてもう一つはその国花以外に花を知らないほどオマーンという国には花がないということである。

「オマーン」という国名になじみがない人もいるだろう。オマーンはアラビア半島の先端に位置する。乾燥帯にあたり、雨はほとんどふらない。そんなオマーンの風景を見て、日本人ならば「世界の果てに来た」と感じるかもしれない。平野部には木も草もない荒野が地平線まで続く。山間部にもやはり木や草はなく、岩肌が露出した山が延々と続いている。花もほとんどない。野生の花はほとんど見られなかった。(ただし、王宮や都市中心部の沿道に整備された花壇はとってまきれい!) そんな場所で育った人々にとって花は貴重なものであり、日常生活に根付いたものではないのだろう。

花に対する態度には人の価値観や思想がよく表れている。生まれ育った環境や文化までうかがい知ることができる。実際私はオマーンの人々の花に対する態度から彼らの価値観や思想を垣間見た。オマーンの人々はどうか。「花をいける」という日本人の花に対する態度から日本の文化や風土に思いを馳せてくれたらどうか。そうであつたら嬉しいのだが・・・。

ただ、私は今でも赤いバラを見ると遠いオマーンの国と人について思いを馳せることができる。それが私の人生にとっても、両国の関係にとっても非常に有益なことだと信じている。



7-2. 会員の声

原の白隠、すでに世界の白隠に

海外で注目される「隻手の音声」

会員 長興寺住職 松下 宗柏

この春、お彼岸をはさんで、「東京外国語大学留学生支援の会」より紹介された四人の留学生が「テンプル・ステイ」に来訪した。

三月上旬に滞在したアンドレス君はトムクルーズばりの好青年であったが、南米のコロンビアの大学を卒業の後、オーストリア留学を経て来日、PCS(Peace and Conflict Studies, 紛争予防・平和構築講座) 修士コースに在籍して勉強中である。二人で、『伊豆の踊子』ゆかりの宿に泊り河津桜を堪能したが、その道中、彼の口から、「隻手の音声(せきしゅのおんじょう、英訳して、サウンド・オブ・ワンハンド・クラッピング)」の話が飛び出したことに驚いた。この公案(禅問答の問題)は、白隠禅師が修行者を指導するに当たって創作したもので、「両手たたいて声あり、片手の声を聞いてこい」というもの。今日でも臨済宗の専門道場で修行者につきつけられる公案である。

コロンビアの大学の日本文化講座で、「日本には『白隠の片手の声』という禅の問題があり、日本人は解くことが出来る。一週間、考えてきなさい」と宿題に出された。もちろん、誰も解ける人はいなかった。私は、「隻手の音声」が海外の大学で紹介されているという事実に驚くと同時に、「果たして本家本元の日本の大学で、これを教える講座があるだろうか? 話題にする先生や学生がいるのだろうか?」と思った。

三月下旬には、外大の協定校からの交換留学生と日研生の女子の留学生三人、ヴァレンティーナさん(モスクワ・人文大学)、エレナさん(イルクーツク大学)、ハイディさん(カイロ大学)が滞在した。ヴァレンティーナさんはアイルランドで出会った日本女性の話を聞いて、日本人の心や生活、武士道精神に惹かれ、エレナさんは清少納言の『枕草子』(ロシア語訳)を高校時代に読んで日本人の感性や美意識に感動した、ハイディさんは、幼少の頃より実業家の父親が話題にした日本の経済に関心をもち、さらに授業で夏目漱石の『心』や『門』を読み精神性に興味をもつようになった、と日本語科選択の動機を話してくれた。

エレナさんは、「隻手の音声」を知っている、ロシア語の本で読んだことがあると話した。日本人には論理的思考の他に、豊かな直感や情緒があり、日本の伝統文化や美術、文学に表現されている。そして、日本人は左脳(理屈、分別心)と右脳(直感、情緒)双方を自由に使いこなすことができる。ここに、日本の経済発展や技術革新と伝統文化の共存の秘密があると説明されていた。四人で白隠道を散策し、お隣の松蔭寺に案内、開山堂の白隠禅師の御像にお参りした時、彼女たちは大感激であったことは言うまでもない。

原の白隠、世界の白隠に

彼らは、直面している世界各地の民族や宗教の対立と紛争、市場論理を最優先するアメリカ型グローバルイズム経済至上主義、地球規模の自然環境の危機、これら世界共通の問題を打開して共存共栄できる道を模索し始めている。そこに、アジアの智慧と体験、すなわち、チベット仏教の説く慈悲と智慧の教え、真実の自己の目覚めへと導く白隠禅への関心が高まる理由もあるように思える。

今や、海外では、白隠禅師への注目、「隻手の音声」への関心が急速に拡がる様相を呈している。近年、『The Zen Master Hakuin』(Columbia University Press, New York)をはじめ、白隠を紹介する英文の本が多数出版されるようになり、白隠の書や禅画が美術蒐集家の関心の的になってきた。

当地では、江戸時代このかた、「駿河には過ぎたるものが二つあり、富士のお山に原の白隠」と言い慣らわされているが、やがて「日本には過ぎたるものが二つあり、富士のお山に原の白隠」と言われる日が来ることを予感させられる。いや、すでに、「世界の白隠」になっているのかも知れない。臨済宗僧侶に限らず、時代認識も新たに、この潮流をきちんと受けとめて応じることのできる日本人が求められているように思えてならない。



ACTIVITIES



8. これからの活動

1

2008年7月6日(日)

歌舞伎見学

7月6日(日) 午後2時～6時
集合時間 午後2時
集合場所 国立劇場大劇場入口前
地下鉄半蔵門線「半蔵門」駅
徒歩5分
地下鉄半蔵門線・有楽町線・
南北線「永田町」駅徒歩10分
歌舞伎プログラム 午後2時半～4時25分
(「歌舞伎の見方」の説明、「義経千本桜」の上演)
懇談茶話会 午後4時半～6時
定員 30名(先着)
申込 留学生支援の会連絡室
(国際交流会館2号館1階)
6月23日(月)から受付
(12時半～4時)
参加費 300円

2

2008年7月9日(水)

留学生と日本人学生の交流会

一留学生による各国の伝統的なお茶と
お菓子の紹介を通じて一

7月9日(水) 午後4時～6時
場所 大学会館 円形ホール
協力 東外大多文化コミュニティー
教育支援室
内容 3ヶ国の留学生が、自国の生活の
概要と、伝統的なお茶とお菓子を
ご紹介します。
プログラム お話 中嶋会長
説明 宮田幹事及び留学生
質問
懇談 留学生と日本人学生の懇談
会員及び地域在住の一般の方々のご参加をお待ち
しております。
参加希望の方は、電話又はFAXでご連絡ください。

3

10月14日(火)～17日(金)

秋期バザー開催

バザー開催日時
場所 留学生支援の会連絡室
10月14日(火)～10月17日(金)
バザー用品受付
10月1日(水)～10月10日(金)
詳細は、ピンク色の別紙ご案内をご覧ください。

9. 幹事会

下記の通り、幹事会を開催いたしました。

平成20年度第1回幹事会 4月20日(日)
平成20年度第2回幹事会 5月17日(土)
平成20年度第3回幹事会 6月22日(日)

平成20年度会費納入も
継続的にお願いいたします。

継続的な
ご支援を!

会員の皆さまには、これまで支
援活動へのご協力、ご支援をいた
だき、ありがとうございます。

平成20年度も引き続き会員として
ご支援いただきたく、本年度会費を同封の振込
用紙にてお振込くださいます様、お願い申し上
げます。振込用紙にメールアドレスをお書き添
えいただければ、今後、当会の各種イベントな
どの情報をお届けしていきます。

一般会員：年会費 3,000円

協賛会員：年会費 20,000円!!

Need
YOUR support!!

<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 留学生課気付(谷川、梅田)
TEL: 042-330-5759 FAX: 042-330-5762
E-mail: tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

東京外国語大学 留学生支援の会

No. 29

Since 1999

会報

ロシアが亀山学長にプーシキン・メダルを贈ることに決定
ホストファミリーの奥澤さん(ロシア科卒)のお宅にロシアからの留学生
がお世話になり、会長の挨拶もロシアに関わるお話。

今号はロシアが熱い！

Pick Up

Event 2008

今年度初企画：歌舞伎見学会、留学生と日本人学生との交流会 お楽しみに！

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

E-mail tufs-issa@nifty.com<http://homepage3.nifty.com/it-tufs/>

INSIDE

Page 1.	1. 巻頭言
Page 3.	2. ご挨拶
Page 4.	3. 活動報告
	3-1 第1回留学生と日本人学生との交流会
	3-2 七夕茶会
	3-3 歌舞伎見学
	3-4 バザー報告
	3-5 自転車貸与事業
Page 9.	4. ホームステイ
	4-1 外語と私
	4-2 奥澤さん宅にホームステイ
	4-3 日本でボルシチ… 夢のような…
	4-4 久保さん宅にホームステイ
Page 10.	5. 留学生の声
	5-1 マラッカ=マラッカ海峡？
	5-2 多磨商店街祭りを知っていますか？
Page 13.	6. これからの活動
Page 14.	7. 幹事会

FOCUS

1. 巻頭言

留学最初の夕食

日本語・英語・中国語対照言語学教授
望月圭子

今年も世界中から留学生がやってきました。私は、ロンドン大学、イギリスリーズ大学、台湾大学、アモイ大学から計7名の留学生の指導をお引き受けすることになりました。ゼミ生にお世話係と日本語のサポートを兼ねたチューターとして、成田空港で出迎え、大学の国際交流会館まで連れてきてもらいます。到着の夜は、簡単な夕食を留学生・チューターと共に行なっています。幸い、東外大中国語学科の卒業生だった亡父が、母校のそばに家を建て、一階部分を文化交流サロン・語学教室・学習塾として設計したので、いつもその場集い、日本の最初の夕食をともにします。メニューは、いつも同じもので、鶏肉の‘気鍋’(中国雲南料理)蒸しスープ、かぼちゃと豆の温野菜サラダ、小籠包、お寿司、パイナップル、かぼちゃアイスクリーム、青森りんごジュース、台湾茶です。日本のか

ぼちゃは、特有の甘みで外国のお客様には喜ばれるので、いつもかぼちゃのサラダを作ります。「え、これパンプキンなの？パンプキンは、ハロウィーンの飾りで普通は食べないものだけ」と驚かれることもあります。

イギリスからの留学生に「何故日本語学科を選んだの？」と聞くと、「日本の映画、歌舞伎が好きだから」「高校生時代のホームステイが、とてもよかったから」と言います。台湾からの留学生は、「日本に憧れているし、将来仕事で役立つから」。生後8ヶ月の赤ちゃんをおいてやってきた中国からの留学生は、「博士号を取得して中国で大学の先生になるため」と言います。それぞれ、長旅の疲れはあっても、興奮と夢と期待に包まれた留学最初の夜です。

大学の寮に送る前に、やかんとマグカップ、コーヒー・お茶のティーバックを渡します。寮には全てが完備されているのですが、お茶を飲むための小道具は、自分で買いにいかねばなりません。熱いお茶やコーヒーでほっとするという事は、とても大切なことだと思うからです。私が初めて中国北京語言学院に留学したときに、簡素な部屋には、コルク栓の大きな赤い魔法瓶と、ふたつきの中国茶マグカップが用意されていました。ロンドン大学の寮でも、到着したとき、部屋に電気ポットと白いマグカップがおいてありました。



私は、20代から30代にかけて、中国、イギリス、台湾に留学する幸運に恵まれました。今思い出すと、鮮

明に覚えている記憶は、授業内容でも、招待されたレストランでの食事でもなく、先生の家でもてなしていただいたさりげない食べ物、飲み物のことばかりです。いまや私のおもてなし料理の定番となった「鶏肉の‘気鍋’蒸しスープ」は、北京大学留学中に、中国語学部の陸検明教授とご夫人の馬真教授のご自宅でもてなしていただいたものです。また、上海の復旦大学留学中は、故胡裕樹教授のご自宅の書斎で中国語学の指導を受けていましたが、途中で奥様が蒸し上がったばかりの‘八宝飯’（上海料理で、もち米にあずき餡、棗、干果物などを入れた甘いもち米ケーキ）と龍井茶を出してくださったことを懐かしく思い出します。イギリスでは、リーズ大学元副学長のホールドクロフト教授のお宅で頂いた手作りのスコーン、マッシュポテトを、台湾清華大学の湯廷池教授のお宅で頂いた、鶏肉の醤油煮込み、空芯菜炒めを思い出します。

そして、日本では、中嶋嶺雄元学長と本会会長中嶋洋子先生のご自宅へ留学生とともに何度もご招待され、洋子先生お手製の天ぷら、お寿司、おでん、煮物などの日本料理を頂きました。中嶋先生のお宅では、嶺雄先生のヴァイオリン演奏と50人を超える留学生たちが車座になって談笑した、忘れえぬ思い出があります。

毎年私のもとでお預かりする留学生たちは、もしかしたら、日本での思い出として、日本での最初の夕食、かぼちゃサラダと、夕食とともにした温かい友情を思い出してくれるかもしれません。

(←右端から2人目:望月先生
会話もお料理も、留学生が集まってくださるからこそ、楽しいひと時となります！)

2. ご挨拶

アナトーリさん、ようこそ外語大へ！

会長 中嶋洋子

秋晴れのすがすがしい季節です。この会報がお手元に届く頃には寒い冬の到来を予感するのかもしれませんが。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか？

まずは、亀山学長のプーシキン・メダル贈呈の決定に(朝日新聞 11月2日付報道)、祝意を申し述べます。

さて、例年のことですが、平成20年度の活動事業案、予算案に関して会員の皆様からのご異議はありませんでしたので、承認されたものとさせていただきます。

すでにホームステイ、ホームヴィジット、七夕茶会、日本語広場、10月期バザー、加えて本年度からの新しい企画であります歌舞伎鑑賞、留学生と日本人学生との交流会(従来の企画であります各国文化紹介を拡大、詳しくは28号をご覧ください)など、その他同好会の諸活動も順調に進んでいます。詳細は各活動報告をご覧ください。

ところで、私事にわたり恐縮ですが、夫の中嶋嶺雄(元外語大学長 現在国際教養大学学長)に同行して10月初めにロシアに行ってきた時のことをお伝えたいと思います。

国際教養大学、早稲田大学、東海大学他の大学と各種日本語学校など10数校の関係者が、モスクワ、サンクト・ペテルスブルグの二大都市で、ロシアの学生たちの日本への留学を誘致するいわば“留学リクルートフェア”に参加したのです。

参加国は日本のみならず、フィンランド、スウェーデン、ノルウェイなど北欧を含めイギリス、オランダはじめ主なヨーロッパ諸国、もちろんアメリカも。

ロシアのまさに老若男女の見学で、会場は熱気に満ちていました。留学情報を得ようと多くの大学生が集まったことはもちろんですが、高校生も多く、保護者と共に相談に来る大学生、高校生も結構な数。孫を連れてお婆さん、お爺さん、中高年男女など参加者は年齢性別を超えていました。

1人で来ていたある中年の紳士は、「お子さんのためにいらしたのですか？」という私の問いに対して「もちろん子どものためです。自分自身は年をとりすぎていて残念だ」と自分のできなかった留学の夢を子どもに託している様子。

ロシアの国民にとって“留学”は人生の新しい夢、現在のロシアという国にとって“留学”は国の新しい勢い、と感じました。

実は外語大でもここ数年、ロシアからの留学生が多くなってきたこと(因みにこの10月から6名)を実感していて、それなりのわけがあるのだろうと思っていましたが、その背後にある国の内情を垣間見る思いがしました。

ところで、今回訪れたサンクト・ペテルスブルグの総領事は外語大卒業の城所卓雄氏(モンゴル科昭和44年卒)であることを現地に行ってから知りました。

彼は中嶋の教え子でもあり、私自身も20数年前モンゴルのウランバートルを訪れた時お目にかかったこともあり、お互い旧知の間柄なのです。その時、城所総領事も中嶋が来ていることをはじめて知り、さっそく領事館にお招きをいただきました。懐かしい出会で話はずきずき、また、彼が現地で大活躍をしている様子に触れ大変嬉しく思いました。

それはさておき、実はそこで、この10月から外語大に留学する(私達と入れ違いで日本に来ていたようです)学生のアナトーリさんのことを知りました。彼は留学の前の短い期間をこの領事館でアルバイトをしていたそうです。国立文化芸術大学の学生で大変優秀で人柄もよい、と聞きました。

帰国後さっそく彼に会い、まずは府中キャンパスの学食でランチを食べました。彼は、城所総領事が外語大の卒業生ということ私から聞いてはじめて知り、驚き喜んでいました。日本語をととても流暢に話し、住所など書いてもらおうと、それは綺麗で見事な漢字を書くのには驚かされました。日研生として日本語・日本文化の研究をするとのこと、今はなるべく多くの授業に出てどの授業をとるべきか模索中。勉強以外にも日本の伝統楽器の琵琶などもやってみたいとか。(当会にも尺八同好会があり、三味線を教えてくださる方もいるのですが、また大学には琴の同好会もありますが、さすがに琵琶の先生はご縁がないので、どなたか情報

を持っている方はいらっしゃいませんか?)

日本食が大好きで、炊飯器をやっと買ったので、夕食は、毎日なるべくご飯を炊き自炊したいとか。

昼食の1時間があっという間に過ぎてしまいました。

中嶋、城所、アナトーリのトリオが海を越え、国を超え、年齢を超えて“外語大”という縁で結ばれ、それぞれ充実した人生を綴っていることにある種の感慨を覚えたことでした。

アナトーリさんが発見の多い意義ある外語大での留学生活を送れるよう、私なりに、当会なりに支援していこうと思います。

アナトーリさん、ようこそ外語大へ！

追記: ここにももう一つのロシアが!

9ページの「外語と私」と題してホームステイを受け入れてくださった奥澤さんの原稿をご覧ください。足利在住の外語大ロシア語科卒業の奥澤さんの所にお世話になる留学生が偶然にもロシアからの留学生ばかりとか。学生にとって最高の出会い、“外語大”の縁で足利にも小さなロシアの輪ができていたのですね。

なお、文中の故志水速雄教授と奥様とは、私ども学生の頃からお付き合いがあった間柄です。

て母国語とし、当該外国語を専攻する日本人学生が通訳に当たることにしました。また、多言語多文化教育研究センター多文化コミュニティ教育支援室に所属する日本人学生の協力も得ることとなりました。今回は多くの学生が参加しやすいようにと考え、場所もこれまでの国際交流会館から大学円形ホールに変更しました。

当日は亀山学長のご挨拶に始まり、多言語多文化教育センター長北脇先生のご挨拶、当会会長の挨拶と続き、韓国、マケドニア、エルサルバドルの紹介となりました。留学生たちは事前に自国紹介のチラシ、ビデオや音楽等を用意し、わかりやすく説明してくれました。そして、これまでと同じく母国の伝統的なお茶、お菓子、軽食などを紹介、参加者はそれを共に味わいながら交流し、充実した時間を過ごすことが出来ました。途中、韓国の伝統的な太鼓の演奏があり、よりいっそう素晴らしい会となりました。参加者は150名余りでしたが、これまでより日本人学生の参加が少なかったこと、日本で食材が入手しにくいこと、会場のこと等今後の検討課題もありますが、工夫しながら続けていきたいと考えています。(宮田記)

REPORT

3. 活動報告

3-1

第1回留学生と日本人学生の交流会

7月9日(水)午後3時から5時まで、大学会館円形ホールにおいて「留学生と日本人学生の交流会」を開催いたしました。これは2005年6月に第1回を始め2007年12月で第6回まで続いた「各国文化紹介—留学生による自国伝統文化の紹介」を基に、留学生と日本人学生がこれまでより、より深い交流ができることを目的に企画されたものです。そして留学生の説明は原則とし



(↑好機到来!!発表することも自国を知るいい機会。)

3-2

✦ 七夕茶会 ✦

毎年のことですが、今年度の七夕茶会は42名という参加者がもっとも多い茶会となり、ゆかたを着せてもらい、畳の上での茶道の体験に一同興奮している様子でした。尺八同好会の中島郭山先生の尺八の演奏が会の雰囲気盛り上げてくださいました。留学生の感想と色紙に書いた願い事を以下にご紹介します。

(三浦記)

✦ 一口感想 ✦

- ・ チンエンさん(中国): はじめての体験です。最高です。
- ・ グエンティツーホンさん(ベトナム): とても楽しかったです。ありがとうございました。ゆかたを着て嬉しいです。
- ・ カクショウエンさん(中国): はじめてゆかたを着て嬉しかった。おいしいお菓子とお茶をいただいて幸せ・明るい日本人の学生さんと出合っただけでよかったです。愉快かつ有意義な1日を過ごさせてただいてありがとう。
- ・ 李蓮玉さん(中国): お茶をみんなのために準備してくださった先生や関係者のみなさま本当にありがとうございました。前から経験してみたかった着物と茶道ができて、印象にのこる1日でした。
- ・ リシュウゲツさん(中国) お茶はおいしく、笛もとてもすばらしいでした。
- ・ 白華さん(中国): 日本に来てはじめてお菓子の食べ方とお茶の飲み方を教えていただいてありがとうございました。すてきでした。先生の演奏もすばらしかった。今日来てよかったと思います。
- ・ イムジュインさん(韓国): 日本に来て、一番日本らしさを感じた気がします。おちゃの作り方を見るのはじめてだったし、面白かったです、また、機会があれば、つくってみたいです。
- ・ スウィモンさん(タイ): 今日、いろいろ日本の文化にたいけんができてよかったです。本当に勉強になっていいおもいです。お茶とおかしも

おいしかったです。

- ・ スンタリーさん(タイ): 日本の文化として茶道を習う機会があって、自分で実際に練習できて、うれしいです。
- ・ スヘイルさん(レバノン): とてもたのしかったです。もういちどきます。
- ・ 張敬輝さん(中国): いい勉強になりました。すごく楽しかったです。
- ・ サンドラマエさん(フィリピン): 畳の匂いが非常に懐かしかったです。素敵な時間を過ごせてありがとうございます。
- ・ チョウウンジさん(韓国) お茶会をはじめてです。にがいけどおいしい。ようかんがキレイですね。いつも食べていたい。
- ・ サンドロさん(イタリア) やはり茶道は魅力がある日本の伝統文化ですね!
- ・ コンユゲさん(韓国): 日本に来て飲んだお茶の中でいちばんおいしかったです。

✦ 願い事 ✦

- ・ 芸術家になりたい。今年自分の本を作りたい
- ・ いろいろなところにいけますように
- ・ サッカーがじょうずになりたい
- ・ いつも居たいところに居られるように
- ・ 日本語がじょうずになりたいです
- ・ これから4年、楽しい留学生活ができますように
- ・ 両親が元気でありますように
- ・ いい研究をするつもりだ。日本で楽しい滞在を過ごす
- ・ 全然後悔しないように
- ・ 受験に合格できるように!
- ・ お母さんお父さんが健康でありますように
- ・ 人間は自然の尊さがわかりますように
- ・ 来年いい仕事が見つかるように
- ・ 外大の大学院に合格できるように・
- ・ 今年の夏、妹が日本に来てくれるように
- ・ くるまがほしいです
- ・ 来年東大に入学するように
- ・ 家族みんなであわせにくらすように
- ・ 好きな仕事ができるよう
- ・ 入学受験に合格できるようにお祈りします



(↑家族のように和気藹々。この雰囲気の中、それぞれが夢や希望を託すのが七夕ですねえ～！)

3-3

歌舞伎見学の報告

当支援の会では、今まで、日本文化理解行事の一つとして大相撲を見学しておりましたが、今年度はそれに代わって、歌舞伎見学を試みることになり、7月3日(日)に、三宅坂の国立劇場の歌舞伎鑑賞教室へ行きました。

留学生 33 名(希望者が多く何人かおことわりしました)、会員の方 1 名、それに初めての行事ということで幹事6名が世話役として参加しました。

時間に遅れる人や、前に渡してあった入場券を無くす人がいたりして、多少ばたばたしましたが、日本語または英語による解説が流れるイヤホンを付けて、全員席に着きました。

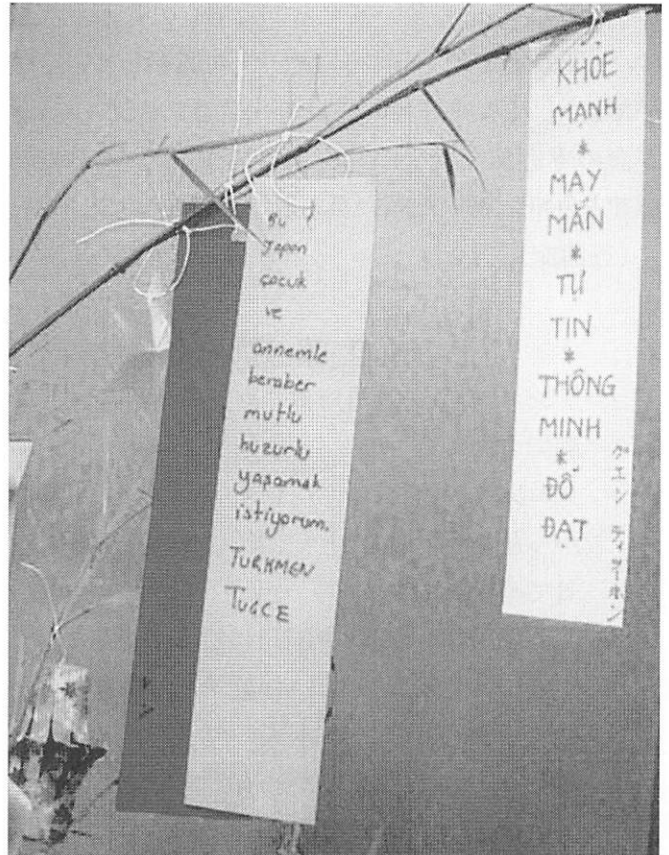
「教室」と銘打っているとおり、初めに大変分かりやすい「歌舞伎の見方」という説明を聴いてから、歌舞伎劇「義経千本桜一河連法眼館の場一」を鑑賞しました。

芝居は「武士に化けた狐が、静御前の打つ鼓の音に惹かれて正体を現わすのですが、それは、その鼓の革がその狐の母親の皮を張ったものであったからだ」という話でした。歌舞伎独特の仕掛けで、親子の情愛の深さを説いた筋を、留学生がどこまで理解できたかと案じたものでした。

芝居が跳ねてから、お茶とケーキで参加者みんなが懇談した際に、「初めはよく分からなかったが、後半は理解できて面白かった」、「とてもきれいだと思

(↓短冊に英文字。洞爺湖サミットでの各国首脳の短冊もそうでした。

～日本と各国文化の融合が叶いますように～)



May your wishes come true!

いました」、「私の国の京劇と似たところがありました」、「私の国インドにも男が女の役をやる芝居があるので、興味深く見ました」、というような意見を聞くことができました。

支援の会幹事会では、来年も歌舞伎見学に行きましょう、ということになりました。(笹岡記)

日本の伝統にふれて

学部四年 麻春禄

歌舞伎を現場で見るのは今回が初めてだった。舞台にいろんな仕掛けがあって面白かったし、俳優さんたちの晴れやかな服装も目を楽しませてくれた。僕は普段テレビで歌舞伎の放送を時々見るんですが、いつも俳優の顔に失望感を覚える。歌舞伎の俳優は男性しかないのが決まりで、テレビで見る時には、女役を演じる俳優の顔がビッグアップされてその表

情がはっきり見える代わりに、どうしても一種の言うに言われぬ違和感を感じる。今回は幸か不幸か一番後ろの席に座っていたので、俳優の顔がはっきり見えないが、その動作はまことにしなやかで女性そのものだという印象を受けた。「女を演じるのではなく、女になりきっている」というアナウンサーの解説にも納得した。中国にも京劇というものがあるが、せりふの分かりづらさや顔化粧、衣装などいろいろな点で歌舞伎に共通している。京劇と比べて、歌舞伎は全体的に遅く、無駄な動作一つない。どの場面を切り取っても一つの絵になるというのが特徴なのかもしれない。この機会に日本の国粹に触れることができ、良かったと思う。

3-4

バザーへのご協力ありがとうございました

去る10月14日(火)~17日(金)の4日間開催しました留学生支援のためのバザーには、様々なバザー用品をご寄付いただき、ありがとうございました。各種辞書、書籍、電気釜、レンジ、温風器、トースター等の電気製品、寝具、衣類、台所用品、バスタオル、石鹸、洗剤などの日用品、缶詰、お米等の食料品などなど、すべて留学生が必要とするものばかりでした。その中には、前回人気のあった、電気製品、寝具類がたくさんありました。

いつものことですが、第一日目は、12時半にドアを開けると、ドッと留学生が押し寄せ、部屋一杯に留学生が集まり、大にぎわいでした。大型電気製品(500円)以外はすべて100円(小さな物はまとめて)、書籍は無料としました。電気製品、特に電気釜、寝具類は人気があり、1時間ほどでなくなりました。バザーに集まった大半の留学生が来日したばかりでしたので、様々な日用品も喜ばれました。一日5点までとしましたので、毎日来てはバザーを楽しみながら必要品を選択し、品物を持って帰っていました。

送っていただいた沢山の品物は、衣類、食器類を除き木曜日には、ほとんどなくなりました。留学生たちは、「どうしてこんなに安いのか?」「ただで良いんですか?」「うれしいー!」と喜んでいました。支援の会にありがとう!これからもよろしく!と、口々に言って帰って

行きました。

来年の4月のバザーの折もどうぞよろしくお願いいたします。(梅田記)

バザーの収益金は、62,550円でした。

- * 今回は、振り袖、男子用の着物などのご寄付もありました。これらの着物は、12月の文化交流会で留学生に着てもらうために、使わせていただきます。



(↑留学生たちは真剣そのもの。ありがたく、品定め!)

とても嬉しいこと=バザール!!

研究生

ヒクマトラエフ・ジャスル(ウズベキスタン)

「10月9日、午前11時半に家を出て、東京外国語大学の国際交流会館2号館に向かいました。2号館に着いて、イベントホールに入ると誰もいません。やった!私は中に最初に入ります。留学生達が次々と入ってきました。12時半になってから、イベントホールのドアが開かれ、みんな中であわてて入り始めました。」

それは東京外国語大学のバザールでした。以前日本に留学したことがある私はバザールに参加したのは初めてです。理由は一つしかありません。アパートを借りたので、家具を安く買いたいです。という理由でバザールを体験しました。

2005年10月、東京外国語大学に国際交流プログラム(ISEP)で来たことがあります。今回も同じ大学に国費研究留学生として来ました。いろいろな理由でアパートを借りることになりました。アパートを借りましたが、

家具は何もありません。沢山のものを買わなければなりません。そんな困ったときにウズベク人の先輩にバザールについて聞きました。

「500円でテレビも買えるよ！掃除機を500円で買ったことがありますよ！何でもバザールに出るから是非参加してね。」などの話を聞いて、バザールの日を楽しんでいました。

バザールが始まるしだい、経験のある留学生が入って、すぐ良い物を選び始めました。私も負けたくなかったので頑張って、掃除機と洗濯機を買いました。また、いろいろな細かいもの、お皿、コップ、タオルなどを買いました。一番嬉しかったのは、掃除機と洗濯機を買ったことです。テレビと冷蔵庫も買ったかったのですが、今回は買えませんでした。

バザールに参加してみて、学生にとってとても便利だと思いました。値段も安くて、売っている責任者も優しく扱ってくれるので、楽しく買い物ができます。1年に2回も行われるのがとても嬉しいことです。

もちろん、学生である私たちがバザールに参加して、簡単に物を買えますが、その準備などを考えるととても大変な仕事だと思います。今度のバザールの前の日、学生たちを手伝いに呼んだほうが良いと私は思います。もし、そんなチャンスがあって、手伝いをする事ができれば、是非手伝いに行きたいと思います。今度のバザールを楽しみにしています。

3-5

自転車貸与事業を始めて思うこと

留学生支援の会では、生活支援事業の一環として、留学生に自転車の貸与を行っています。中古の自転車のご寄付を受け、千円の保証金を預かるだけで無料で希望者に半年でも一年でも貸与して喜ばれています。台数も徐々に増え、現在約40台の自転車が留学生に使われています。

交通費の高い日本で、ある程度の距離なら交通費なしで行かれるというのは、とても有り難いことです。通学に使っている人もいますし、買い物に行ったり、サイクリングに出掛けたりしているようです。貸与の手続きを終えると、自炊をしている学生が「これで食品をたくさん買って来られます」と喜んだり「休みの日にどこか

へ行ってみます」と嬉しそうに話したりするので、会としても遣り甲斐を感じています。

ただ、台数が限られていますので希望者全員に貸与する事が出来ず、来日後すぐ借りられる運の良い学生もいれば、申し込みを受けてから数ヶ月待たせてしまったり、留学期間が半年の学生はそのまま帰国になってしまったりすることもあり、申し訳なく思っています。

また、元々中古を頂いていますので更に修理が必要な場合も次第に現れ、維持管理の問題など課題も出て来ましたが、留学生の生活に直接役立つこの事業はぜひ続けて行きたいと考えています。(阿部記)

3-6

留学生11人が立川国際中等教育学校の国際理解のための「土曜講座」に参加し大いに歓迎され、同時に大いに感激しました。

12月26日(土)、クロアチア、イラン、ラオス、韓国、中国、インドネシア、ヴェトナムの7カ国からの留学生11人が、立川国際中等教育学校の1年生の総合学習の授業に招待され参加しました。この学校は、都立中高一貫教育学校のなかでも、唯一の国際中等教育学校で、将来国際社会に貢献できるリーダーを育てるための学校だそうです。

朝、8時に立川駅に集合。出迎えの先生と一緒に学校に到着し、校長室でご挨拶。30分後に交流委員のキム君の案内で、総勢160人の1年生が待つ会場に行き、歓迎の挨拶を受けました。その後、留学生は4グループに分かれて、各クラスでそれぞれに自己紹介をかねて母国の紹介をし、子供達は日本の遊びを、留学生は自国の遊びを紹介しあって、共に遊びました。遊びを通じて交流をすることで、子供達は留学生の国に興味を持ち、留学生は日本の文化の一端に触れることができました。最初は、ぎこちなさも見られましたが、しばらくすると互いにうち解けて、最後は夢中でゲームを楽しんでいました。2時間交流した後、全体会があり、そこでグループ毎の報告があり、留学生も感想を述べる機会がありました。10月に来たばかりの留学生も1年以上在学している留学生も、今回の楽しかった経験を忘れない

し、もう一度を経験したいと言っていました。最後に感謝の意を込めて子供たち全員で、素晴らしい合唱をしてくれました。

子供達全体がそれぞれの任務を分担し、日本語がまだ得意でない留学生には、自主的に英語の出来る子供が通訳をかって出たりと、全体的に意欲的な子供達で、いい交流が出来てよかったと思いました。

(梅田記)



(↑中学生からの質問にわき、時間が・・・！)

EXPERIENCE

4. ホームビジット&ステイ

4-1

外語と私

会員 奥澤 清子

初めまして、奥澤と申します。昭和48年外語ロシア科に入学しました。当時、西ヶ原の外語は古く、老朽化し、立て看板は乱立し、お世辞にも憧れのキャンパスライフには程遠いものでした。最大の出来事は恩師亡志水速雄教授、奥様に出合ったこと、良き友達に恵まれたことでした。ロシア語を活用できぬまま4年半社会で働き、結婚、子育て、今また夫婦二人の生活に戻ったわけです。自分の時間が持てるようになり、私は一体何をやりたいのかと考えた時、語学から離れられない自分に気

付きました。ラジオ講座を聴き、英会話教室に通っても、何か違うと思っていた時、留学生支援の会を知りました。それまでも市の国際交流協会から依頼され、いろいろな方々をお泊めする経験はありました。

支援の会のお手伝いをするようになると、偶然でしょうかロシアからの留学生ばかり我が家にやってきます。どの女子学生も真面目で、お化粧つけもなく、素颜そのままの彼女たちは輝いて見えます。一年の留学期間は短く、日本の事を何でも見たい、知りたい、学びたいのどと感じます。授業の話、試験勉強、レポートの話は彼女達が毎日猛勉強している姿を想像させます。

勉強は大変と言いながら、できれば帰国したくないと言います。そんな話を聞くと、日本と日本人をいつまでも好きでいてほしいなと思います。

ホームステイは一人ではできません。主人の理解と助けも大きなものです。

夕食は話が弾み、毎晩遅くなりますし、週末は遠出もしてくれます。とても感謝しています。

我が家がもう少し外語に近ければ、支援の会のお手伝いをもっとできるのと思うこと頻りですが、今できる範囲内でやってみようと考えております。

宮田様はじめ皆様のご助力は大変かと思いますが、いつまでも支援の会が続くことを祈っております。

4-2

奥澤さんのお宅にホームステイをしまして

日研生

スメタニア・エレナ(ロシア)



足利市のホームステイは本当に忘れられない三日間となりました。あっという間に過ぎたことは言うまでもありません。その短い期間に様々な所に連れて行ってもらったり、色々面白い話をしたりしていただいて、発見に溢れる旅でした。

例えば、足利学校という有名な所ですが、私たちは昔の生徒のように自分の日本語能力試みたくて、テストを受けようと思いました。中級や上級はもちろん、初級の問題もなかなか難しかったです。たしかに日本語の

勉強はこれからだとふと思いました。とても楽しかったです。

最終の日には、世界遺産となった東照宮に連れていっていただきました。徳川家康の廟所の豪華さは印象に残りました。

お父さんもお母さんもとても親切で、歓迎していただきました。本当にお世話になりました。

到着日にお母さんは私たちのためわざわざボルシチというロシア料理を作ってくださいました。実は、お母さんは外語のロシア科卒業で私たちの大先輩でした。感激しました。その他にもおいしい家庭料理を一杯食べました。

縁があったら、もう一度ぜひ奥澤さんのお宅を訪れていきたいと思います。

4-3

日本でボルシチ・・・夢のような・・・

ISEP
アヤ(ロシア)

足利市に私はロシア人の友達と一緒にきました。街はきれいでもとても静かでした。行く前、私はたくさんの中間テストがありましたから、大変疲れました。それで、足利市に来てゆっくり休みました。奥澤さんと日本の文学や文化について話をしたり、寝たりしました。奥澤さんが作った料理はすごく美味しかったです。ボルシチというロシア料理も作ってくれました。私たちはびっくりしました。子供の時からよく知っているにおいを感じて少し懐かしくなりました。

日本で一番古い学校に行きました。足利学校は大変面白かったです。夜の時、電気公園にも行きました。私はこのような公園を初めてみました。本当に夢のような公園でした。

最後の日、私達は車に乗って日光に行きました。徳川家康のお墓を見て、長い散歩をして、そばを食べて家に帰りました。

ほんとうによかったです。6月ももう一度会って、一緒に蛍を見に行きたいです。



4-4

久保さんのお宅(広島・会員)に ホームステイして

日研生
クリストヴァ・ラダ(ブルガリア)

今年の8月のホームステイは私にとって初めての体験でした。「日本のホームステイ家族における生活」というのを全く知りませんでした。今になって「ホームステイ」というのは留学へのすばらしい思い出と同時に貴重な経験という風に考えています。

久保さんのお陰で広島ですばらしい1週間が過ごせました。広島的美味しいお好み焼き、もみじ饅頭、あなごめしなどを食べさせてもらったり、様々な美しいところへ連れて行ってもらったり、日本の歴史や文化についての知識を深めさせてもらったりして、毎日毎日充実していました。広島に行っている間に岩国の錦帯橋、岩国城、広島市の平和記念資料館、広島城、宿景園など雄大なところに行って、日本の歴史と文化をもっと深く理解できました。8月6日の広島のとろろ流しにも参加する時、目に涙が出るほど感動しました。

第一、広島の人がとってもやさしく、1週間だけで来ているのに、まるでそこで生まれたようななじみを感じさせてくれました。そんな人達のやさしさを決して忘れません。作らせていただいたすてきな思い出を大事にしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

VOICE I

5. 留学生の声

5-1

マラッカ＝マラッカ海峡??

日本課程日本語専攻4年
アダム・ホー・セックジア
(マレーシア)



おかげで、「Malaysia Truly Asia」。
皆さんは最近テレビのコマーシャルなどでこのことば

をよくお聞きになっているでしょう。最近マレーシアに関する情報は洪水のようにあふれていますよね。特に、ロングステイの国として人気があるとか。日本の皆さんはこの国に対してどんな印象を持っていらっしゃるのでしょうか。

私はマレーシアから参りました留学生です。生まれ故郷はマラッカ(Malacca)ですが、よく「マラッカ？それはマラッカ海峡のことじゃない？」と日本の方に聞き返されます。日本人には「マラッカ＝マラッカ海峡」という誤解を持っていらっしゃる方が多いようですね(笑)。ここで、素人ガイドとして自分のホームタウンについて紹介したいと思います。

マラッカ、あるいはマレー語でムラカ(Melaka)は、マレーシアの十三州の一つで、マレー半島の中南部に位置し、シンガポールとクアラルンプールの間にあります。州の面積はそんなに大きくなく、州都は海に面したマラッカ市(Malacca City)です。車で、クアラルンプールからは二時間で、シンガポールからは四時間です。国際空港はありませんが、クアラルンプール国際空港などからは直行バスが出ておりますので、とても便利です。

マラッカはよくマレーシアの歴史の発祥の地だといわれています。十五世紀ごろマレーシア初のマレースルタン王国(Malay Sultanate)がここに誕生し、当時の東南アジアの経済中心地として栄えていました。「マラッカ海峡」はおそらくその最初の王国のゆかりで名づけられたでしょう。その後、続々とポルトガル・オランダの植民地となり、最後はペナンとシンガポールと並びにイギリスの海峡植民地になりました。それらの外国が現地にもたらした影響は少なくありません。ポルトガル人が残したサンティアゴ城門(Porta de Santiago)、セント・ポール教会(St. Paul's Church)、セントジョン丘(St. John's Hill)、そしてオランダ人に残されたオランダ広場(Dutch Square)などなど、入植者たちの遺跡がいっぱい残されています。オランダ広場はマラッカを代表するとても魅力的な場所で、その中にオランダ市役所(Stadhuis)、クロックタワー、オランダプロテスタント教会(Malacca Christ Church)があります。その広場にいと、まるで中世ヨーロッパの町に包まれたようなエキゾチックな感じですが。その場所は、マレーシア、あるいはアジアの「ミニヨーロッパ」といっても過言ではない

でしょう。ちなみに、マラッカは最近ペナンとともに世界遺産として認定されました。

マレーシアに詳しい方は、きっとマレーシアは多民族国家で、三大民族があるということをご存知でしょう。先住民のマレー人のほか、そのあと中国の南部、主に広東省と福建省からやってきた中国系の人と、インドの南部、特にタミルナドゥからやってきたタミル系インド人もたくさんいます。それから東マレーシアにマレー人以外の先住民マイノリティーもたくさん住んでいます。1969年の513種族暴動以外は、大規模な民族間の暴動はなく、みなマレーシア人として平和に暮らしています。

マラッカには、三大民族のほか、そのところならではのマイノリティーコミュニティがあります。ユーラシア系(Eurasians)・ババニョニャ系(Baba Nyonya Chinese Peranakans)・チッティー系(Chitty Indian Peranakans)です。ユーラシア系は主に昔のマレー人とポルトガル入植者たちとの子孫で、今でもキリスト(カトリック)教を信じており、十六、七世紀の古〜いポルトガル語、クリスタン(Cristang)というクレオール語を使っています。マラッカ市内のポルトガルスクエア(Portuguese Square)は、その人たちの定住地(settlement)として有名です。毎年そこでその人たちが古くから守ってきた祭りなどが見られます。その一方、ババニョニャ系とチッティー系の人たちは、それぞれ中国系とインド系と現地のマレー人との混血民族です。その人たちは祖国(中国・インド)の古い風俗習慣を守りながら、マレー人の文化もたくさん取り入れています。ババニョニャ語とチッティー語というクレオール・マレー語を使っています。

その人たちのマラッカは文化的に多彩だけではなく、食生活も多種多様になっています。マラッカでは、三代民族の料理はもちろん、ポルトガル料理やババニョニャ料理などのマイノリティー料理も食べられます。よくペナンはマレーシアの美食天下だといわれていますが、マラッカはそれに負けません(笑)。おいしい料理がたくさんありますので、日本の皆さんはぜひいらっしゃって満喫してください。日本人が食べやすい和食のようなあっさり系の中華麺類もあれば、激辛のババニョニャ料理やマレー料理もあります。いかがでしょうか。「人生一度」の「食冒険」を味わってみませんか。

新規ご入会いただきありがとうございます

(平成 20 年 5 月 17 日から平成 20 年 10 月 20 日)

網島真澄 三浦洋子 森田絹代 (敬称略)

ご寄付の御礼

次の方々からご寄付をいただきまして、ありがとうございました。会報 28 号発送後、次々とご寄付が届かれ、皆様の当会への深い思いと御支持に対して幹事一同感動致しました。略儀ながら、本会報にて深く御礼申し上げます。

一般会計へのご寄付総額は 122,000 円、また、緊急貸付基金へのご寄付総額は 1,045,000 円でした。(10 月 20 日現在)

一般会計への寄付者

大橋健三郎 北村みどり 笹岡太一 下村和彌
新堂睦子 鈴木千尋 箱崎洋子 平山廣二
松下宗柏 (敬称略)

緊急貸付基金への寄付者

青木まゆみ 浅野尚文 阿部善信
生山裕美子 池谷満 池田修晤 池田弘子
石井和子 石井米雄 石川和子 石黒健司
石嶋啓造 板久恭子 市川友子
井上東一・久美子 猪鼻光子 上野幸江
梅田由美子 海老澤扶美子 大塚定
大坪美智子 大西初美 大森堅五 大山幸房
岡本操 岡谷英雄 角田秀夫 片岡護
要田充重 金丸則子 川口健一 川村泰久
菊池雅子 北尾隆昭 北和郎 北村みどり
挙市玲子 窪田清 栗原三智子 小林佐智子
五味和行 斎藤美智子 坂本恵 崎野はる代
笹岡太一 定本博巳 島田正 菅原恵美子
鈴木一正 鈴木文子 鈴木正道
千田千鶴子(理恵) 高木啓子 高木幸子
高野尚武 高橋恵子 高橋作太郎 竹内和夫
多田茂 辰見英津子 田邊聡 田原明
玉田健一 塚本勝弘 寺田朗子
外池喜代二(麻衣) 内藤義弘 中井資員

マラッカはいまだに私の大好きなところです。もちろん自分の生まれ故郷でもあります。東京とあまり変わらないクアラルンプールのような活気にあふれた雑踏するところに飽きてしまった日本の皆さんは、京都のような歴史的な息吹の濃厚なマラッカはいかがでしょうか。もしかして、とても気に入ってしまって、老後ここでロングステイしようかという方が出てくるかもしれません。Selamat Datang Ke Melaka. Welcome to Malacca 歓迎您到馬六甲來玩。欢迎您到馬六甲來玩。(ようこそマラッカへ。)(タミル語・クリスタン語・ババニョニャ語・チッティー語はできませんので、どうかお許し下さい。(;))

5-2

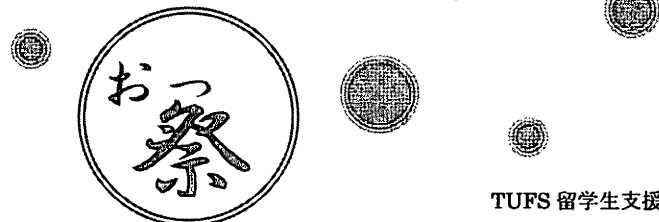
多磨商店街祭りを知っていますか？

日本課程 4 年
べ ヘラン(韓国)

日本に来て驚いたことの一つは日本の祭りの多さです。全国規模の大きな祭りから地元の小さな祭りまで様々な祭りがありますが、その規模に関わりなく祭りを通じて人が集まり、楽しむ姿がとても素敵だなと思っていました。

2 年の秋、多磨商店街祭りに参加する留学生を探している貼紙を見て、参加して始めて多磨にもお祭りがあることがわかりました。多磨商店街祭りは地元の住民が力を合わせて多磨駅前のロータリーで開催される小さなお祭りですが、留学生の私はお手伝い役として参加することができたのです。多磨の住民たちと一緒に屋台でお手伝いをしながら、催し物を見たり、参加していくうちに多磨の住民の皆さんとの距離が段々縮まり、私もこの一員であるという充実感を感じることができました。

私はその後からも多磨商店街祭りには毎回参加することになり(今まで 5 回も参加することができました!!)、今や多磨の住民の皆さんと顔見知りもどんどん増えて、まさに第2の故郷という感じがします。私はとても日本の温かみを感じられたとても楽しい経験としてずっと思い出に残ると思います。



中田雅之 中村和子 二口政信 西本祥子
 新田和夫 野中千恵子 橋本和代 長谷川孝
 長谷川雄一 原誠 東川 繁 深澤剛司
 福山直登 藤井隆雄 古澤はるみ 細田隆一
 堀田健彦 本望春夫 松尾毅 松田素子
 松村一成 三村紀子 宮川宗之 宮崎昌子
 毛受佳代子 望月征美 柳川三郎 築田長世
 山木茂 山岸隆夫 山中香織 横石邦彦
 横田淳子 吉井豊 吉田展子 四ツ倉隆夫
 渡辺恵子 渡辺晋太郎 渡辺福利
 (非会員)箱崎健一 星達雄

(敬称略)

万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。
 その節は当会までお知らせ下されば幸いです。

ご了解いただきたいこと

上記のように緊急貸付基金へのご寄付をいただき
 心より御礼を申し上げます。ご協力に感謝致します。

そこで大変申し上げにくいことですが、7月18日以前
 にご寄付を頂いた方がたの中に会費を含めてご寄
 付いただいたのか、会費はまた別に納入くださるおつ
 もりなのかこちらとして判断しかねるケースが何件かあ
 りました。当会にとってはまずは会費収入が一般活動
 を支えていますのでご寄付の金額から会費 3,000 円
 を差し引いた金額を緊急貸付基金への寄付とさせて
 いただくことでご理解願えればと思います。(7月19日
 以降についてはそのように処理させていただきました。)

しかし、会費は別、とお思いの会員の方はどうぞ当
 会までお知らせください。

ACTIVITIES

6. これからの活動

1

2008年12月19日(金)
 国際交流の夕べ

大学と共催で、年に一度留学生の交流の場として
 次のような催しが企画されています。午後は、書道、

茶道、華道、折り紙、碁、着物着付けなどの日本伝統
 文化の体験の場が予定され、夕方6時からは学生会
 館で懇親会が盛大に開かれます。

2

2009年1月21日(水)(予定)
 第2回留学生と日本人学生との交流会

今号で第1回の交流会についての記載があります。
 今年度中に第2回を計画しています。

3

2009年3月20日(金)
 鎌倉見学

鎌倉在住会員のご協力で、本年度の最後のイベン
 トとして、1日鎌倉見学を予定しています。



LET'S JOIN TOGETHER!

会員の皆様のご参加をお待ちしています。
 参加ご希望の方は、当会、または下記までご連絡
 下さい。042-330-5183(火、水、金のみ、梅田まで)



平成20年度
 会費納入にご協力を!

10月20日現在
 会員数:836名
 納入者:254名
 納入率:30.4%

すべての活動は皆様の年会費で行っております。
 本年度会費の未納の方々は同封の振込
 用紙にてお振込みくださいます様、お願いもうし
 あげます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力
 をお願い致します。

一般会員:年会費 3,000円
 協賛会員:年会費 20,000円

7. 幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成 20 年	7 月 27 日(日)
平成 20 年	10 月 13 日(日)
平成 20 年	11 月 22 日(土)

ご意見、感想など、会報への
投稿募集 どんどん
お寄せ下さい

当会へのご意見、ホームビジットやイベントに関するの
感想文など、会報への投稿をお待ちしております。
お気軽にお問い合わせ下さい。

HOME VISIT & STAY

ホームビジット、ホームステイ受け入れに
関心のある方は是非、当会にお問い合わせ下さい。

<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 留学生課気付(谷川、梅田)

TEL: 042-330-5759

FAX: 042-330-5762

E-mail: tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

©Copyright 2008, TUFSS International Student Support Association

TUFS 留学生支援の会 会報 | No.29

東京外国語大学 留学生支援の会

No. 30
年3回発行

Since 1999

会報

会費納入をお忘れの方、どうぞ振込をお願いいたします。
世界的な金融危機が、とりわけ私費留学生の生活を圧迫しています。

(11 ページ参照)

Pick Up
Event 2009

春期バザー、今年も開催決定！ ご協力をお願い申し上げます。

物品受付は4月20日(月)～4月24日(金) (10 ページ参照)

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5759 FAX 042-330-5762

E-mail tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/it-tufs/>

INSIDE

Page 1.	1. 巻頭言
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 活動報告
	3-1 地域の小学生と留学生が交流会
	3-2 「日本文化交流会」と留学生友好交流のための懇談会「国際交流のタベ」
	3-3 留学生と日本人学生との交流会
Page 6.	4. ホームステイ
	4-1 マヤさんのウィークエンド・ステイ
	4-2 HOME STAY
Page 7.	5. 留学生の声
	5-1 日本は第二の故郷
	5-2 就職活動報告
Page 9.	6. 会員の声
	6-1 支援の輪
Page 10.	6. これからの活動
Page 11.	7. 私費留学生への緊急支援に関連して

FOCUS

1. 巻頭言

24年前の留学生生活

外国語学部地域・国際講座教授
丹羽 泉

本学の短期留学生プログラム(ISEPTUFS)が始まって、10年が経ちました。このプログラムの立ち上げに関わったことが契機となって、その後、留学生委員会や国際学術戦略本部(OFIAS)等の活動に関わってきました。ISEPTUFSが始まった背景には、当時の「留学生受入れ10万人計画」がありました。この計画は、2003年に達成されましたが、現在は、さらにその数を30万人に増やそうという方針が打ち出され、留学生受入れをめぐる環境は今後も大きく変化していきそうです。

もう24年前になりますが、私は韓国のソウル国立大学で留学生生活を2年半ほど過ごしました。大分昔のことですが、今でもその時の記憶は鮮明で、密度の濃い時間を過ごしていたのだと思います。当時の韓国では留学生はそれほど多くなく、本学の留学生課に相当する部署もなく、またチューター制度もなかったの

課長一年目を振り返って

留学生課長 渡辺 恵子

で、授業登録や事務的な手続き等、キャンパスでは他の韓国人学生と全く条件の下で学んでいたように思います。そのため、同じ研究室に所属する友人にいろいろと教えてもらわなくてはならず、その点では苦労も多かったように思えます。その代わり「留学生読書室」というスペースが一室設けられていて、そこに行くと、留学生の世話をする担当の方がいて、いろいろと必要なアドバイスをしてくれました。授業の空き時間には、よくここを利用しました。他の留学生も誰かしら常にいるので、情報交換をしたり、友人との待ち合わせ場所としても便利だったのです。

ISEPTUFSを立ち上げた時の趣旨の中に、「IJ共学」というコンセプトがあります。これは、「留学生」だけを括りだすプログラムではなく、本学の日本人学生と共に学ぶ教室の実現を謳ったものです。そこでは「日本人」と「留学生」の区別をなくして、共に“International Student”という意識を共有できる、そういうグローバルな空間を創造しよう、という考え方です。

私の韓国留学中の体験を思い起こすと、いろいろと不便や苦労はありましたが、キャンパスでは全く他の韓国人の学生たちに溶け込んで、暮らしていたようにも思えます。今ではその苦労の中で、助けてもらった韓国人学生との交流も懐かしい記憶になっています。そういうわけで、図らずも私の留学生活では、「IJ共学」ならぬ「IK共学」が実現していたともいえるわけですが、それは大学の研究室に所属していた、ということが大きいのだと思います。

ISEPTUFSの留学生の場合は、所属する特定の学科がなく、日常的に接する日本人学生がいないため、“IJ共学”の環境をいかに作っていくか、が課題になります。留学生に対するケアという点では、留学生日本語教育センターや留学生課、チューター制度、さらには「留学生支援の会」等の活動に支えられ、物心両面においてかなり充実していることは、すばらしいことと思います。さらに今後キャンパス全体が真に留学生に開かれた場としていくためには、より学部教育全体の中に包摂されるようなプログラムとして育てていく必要があると思います。そのために、今後さらなる努力を注いでいきたいと考えています。

昨年4月から留学生課長を務めております渡辺恵子と申します。着任する前は文部科学省に勤務しており、大学での勤務も留学生の担当も初めてです。周りの皆さんに助けをいただきながら、なんとか1年が過ぎようとしています。

留学生課に来て驚いたことは、留学生がごく普通にキャンパスライフを送るために、こんなにたくさん事務処理が必要なんだ！ということでした。各係では、窓口で学生さんに対応しながら、事務処理をこなしています。課長という立場では、個別の事務処理を自ら行いはしませんが、留学生の病気等の対応、留学予定の交流協定校との手続きが上手くいかない日本人学生のサポート、新規事業のための外部資金獲得、留学生30万人計画を踏まえた本学における留学生受入体制の充実案検討、円高に伴う留学生緊急支援奨学金の創設・交付、留学生緊急支援基金の創設など、日々退屈する暇もなく(?)、東奔西走しております。

私自身、イギリスの大学院で研究生として5ヶ月間学んだことがあります。大きな病気もしなかったのも、留学生担当オフィスにお世話になったのは事前に入學許可をもらうときだけでした。寮に入るためには寮のオフィスと別途交渉する必要があったのですが、その担当者がなかなか連絡のつかない人で、渡英前に入居許可をもらえず、やむなく渡英当日は友達の家へ転がり込み、翌日オフィスの窓口に行って、ようやく入居許可の確認ができました。その当時ははらはらしましたが、今では思い出の一つです。留学の収穫はテーマに関しての調査研究を集中して進められたことですが、それ以外に、クラスが一緒の英国人や各国からの留学生、日本からの留学生、指導教員と日々を一緒に過ごし、様々な議論(歴史・思想・宗教的なことからたわいもない雑談まで)を交わし、日本という国や自分について、改めて見直せたこ

とも大きな収穫でした。

大学事務局の最も重要な機能は、留学生がごく普通にキャンパスライフを送るための事務を滞りなく行うことですので、限られたスタッフでは、往々にして「きめ細やかな支援」、例えば留学生と日本人との交流促進や留学生への日本文化・社会等の紹介・体験斡旋等についてはどうしても行き届かないところがあります。支援の会の皆様には、その「きめ細やかな支援」に多大な御尽力いただいております、本当にありがたく思っております。私の経験からも、留学生の心に残るのは、むしろ「きめ細やかな支援」です。今後とも皆様の暖かいご支援を賜りますようお願いいたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

REPORT

3. 活動報告

3-1

地域の小学生と留学生が交流会

当会がアレンジして、留学生が学校を訪問し、小学生と交流するという活動に取り組んでいます。これは小学校側からの要請によるものですが、留学生にとっても、様々な機会に日本を広く知り体験ができるので、参加する留学生も増えています。以下、白糸台小学校の国際理解授業のプログラムに参加した留学生からの感想です。(館記)

フランスとニッポン

ISEP

流船・オンディーヌ Onddine Le Censne
(フランス)

ボンジュール。2008年10月から東京外国語大学の交換留学として来日したフランス人のオンディーヌと申します。私は2008年11月21日、ちょうど外語祭の時に、三人のタイの留学生と一緒に外語大から近い白糸台小学校の国際理解授業のプログラムに参加

する機会があつて、想像したより大変面白い国際交流体験になりましたわ。

留学を始めてから、数回も小学校を訪ねさせていただいたことがありますが、今回の白糸台小学校は初めてだったし、そこ小学生はフランスの話に興味持っているかどうかよくわからなくて、タイの同級生と同じぐらいとっても楽しみにしながら、少し緊張してしまいました。一番びっくりしたのは小学校の温度なんですけど、フランスの小学校ではありえないほど涼しくて、前に聞いたことあつた「子は風の子」という有名な日本の諺の実験になりました。

しかしながら、他方では小学校の活発さにもかなり驚かれました。4時限から昼休みまで私たちは次々に自己紹介と自分の国を紹介したりする間に、生徒のみんなは床にじっと座って熱心的に聴いてくれ、生徒の中では外国人に初めて会う人が少なくなかったかもしれません。確かに100人ぐらいの前にスピーチをしながら、できるだけそれぞれの生徒を見てみようとする、本当に表情豊かな顔が読み取れました。好奇心や楽しみや心配やからかいやうっとりした様子などのたくさん顔が見られましたが、ぼんやりした様子とか無関心はぜんぜん表していませんでした。

美食や定番スポットや美術品やスポーツレコードといったフランスの多数の側面を紹介した後の残っている時間は質問コーナーになりました。日本小学生がフランスの生徒より内気な子供とずっと思っていたのは逆にどんどん質問を聞いてくれ、よく出てくるのは東京タワーよりエッフェル塔の高さとか日本に住んでいるフランス人の大好物(今では間違いなくお寿司でしょう)とか留学生としての生活(来日してから一番驚いたのは? やっぱりたぶんどこの出身国でもより磨いたマナーと完璧なサービス)についての質問でした。

帰る前に、漫画でしか体験しなかった日本小学校っぽい昼休みを生徒と一緒に過ごし、また小学生になったなあと気がして、大変嬉しかったです。フランスでは幼稚園から高校まで食堂で食べて、実際途中で家で昼食を食べに帰る生徒もいますが、日本でのランチタイムはフランスより責任感を持たせるきっかけとなって本当によかったと思います。他にはフランスと比べると日本の小学校は特別に体育を奨励すると気づくようになりました。それで、そばに座った男の子に「学校は

どう思う？」と聞いてみたときに、ためらうことなく「楽しいよ！」と返事をしてくれたのは当たり前ではないだろうか。



↑「子どもは風の子」を見て、感じて・・・感受性の豊かな小学生らとの交流こそ、ニッポンを知ることができるのです！！子どもからの質問は、留学生をドキッとさせることも・・・貴重な体験となっている様です。

3-2

2008年度国際交流事業「日本文化交流会」と留学生友好交流のための懇談会「国際交流の夕べ」が開催されました！！

今年も、大学・支援の会共催の国際交流事業が、2008年12月16日(金)午後2時から8時まで、大学会館と国際交流会館交流ホールにおいて開催されました。

「日本文化交流会」では、恒例のごとく、「着物体験教室」、「華道教室」、「茶道教室」、「将棋・囲碁教室」、「折り紙・和紙人形・墨絵教室」の5つの体験教室を開きました。留学生たちは、自分の興に任せそれぞれの教室に参加し、初めて体験する日本文化を楽しみました。

毎年人気の着物は、今年は振り袖、羽織、袴の数もそろい、藤色の若殿様スタイルの着物や、ピンクや深紅の着物など、女男共に好みにあった着物を着せてもらい、互いに写真を撮ったり、キャンパスを散歩したりと、喜びが体中からあふれ出ている感じでした。将棋・囲碁教室では、上手な留学生が先生との真剣な対決勝負をしていたり、他のそれぞれの教室でも、琴の音の響く落ち着いた雰囲気の中で、先生方の丁寧な指導のもと、お

茶、お花、墨絵、折り紙など、日本文化の一端を味わっていました。今年は、そこで創作した作品のいくつかを、夜の懇談会の場に飾り、好評を得ました。

夜6時からの、留学生の交流・友好を広げる場である懇談会「国際交流の夕べ」には、日頃留学生を支援、協力してくださっている奨学財団、地域の方々、教職員、日本人チューター等に加え、今年はISEPTUFSプログラムが開始して10年目ということで、その記念事業として同日開催された、シンポジウム参加者も出席し、大盛況でした。留学生課長司会の第一部は、学長、支援の会会長の挨拶の後、来賓紹介、乾杯、懇談を含め30分で終わり、留学生司会の第2部が始まりました。留学生による歌と踊りの発表、支援の会による福引き、先生と職員、日本人学生、留学生が入り交じっての演奏や歌で、会場は盛り上がり、あっという間に終了時間の8時となりました。2008年度は、様々な暗いニュースもたくさんありましたが、新しい年が留学生達にとって、明るく最良の年となることを祈念しつつ幕を閉じました。以下に参加した留学生の感動の声を伝えます。(梅田記)



↑自国をアピールする。東京外国語大学にて親善大使として立派に活躍する一夜となりました！

当会提供・毎年恒例の“福引き”も好評でした。(笹岡副会長司会/写真右下)

引き寄せられて、魅せられて！

日研生
ムハマッド・サトリア（インドネシア）

世界は異なる文化によって作られ、世界を美しくします。私たち、異なる国から来た留学生たちも日本独自の文化によって引き寄せられ来日しました。

今から2ヶ月前、12月の19日頃、その日私たちは日本文化をより近く実感することができました。着物、琴、茶道、折り紙、将棋など、いろいろな事が日本文化交流会で紹介され、体験することができました。

昔、テレビで日本の伝統的な服を見て一瞬興味を持ちました。女性の服は美しく、男性の場合は凛々しい印象を受けました。心の中で“いつ、これを着られるのかな、着たいなあ”と思った事がありました。夢だけでしか想像できなかったあの綺麗な服、着物。当日の交流会に着るチャンスを与えられるなんて、夢かと思いました。早速、着物を着て鏡を見ながら自分が昔思い描いたことをやっとな実現することができました。一生忘れられない経験でした。

多彩な駒で王将を攻め取る「将棋」と白黒に分けた陣地を奪い取る「囲碁」。

子供の頃から父親にチェスを教えられて、日本にもチェスのような遊びがある事を知ったあと興味を持ちました。留学生支援の会で毎週、将棋や囲碁などをプロの先生から学び、腕を少しずつ磨きました。ある日、将棋の先生、佐々木先生は日本文化交流会のチェスの担当を私に託されました。東洋・西洋文化を一つの場で紹介し、グローバルな展開を見せる企画がユニークで、その企画に賛成し、当日会場でチェスの責任者になって、嬉しかった。残念なのは参加者が少しで、あまり盛り上がらなかったことでした。でも、先生方と一緒にいられるから寂しさも吹き飛び、いろいろな事を学びました。

少し休んで他の会場に見に行ったら、驚きました。そこで、まだ触れたことがない日本文化を実感することができました。折り紙、水墨画、和紙人形、琴などの体験は自国の国ではあまりなかった、そこで知らなかった事をいろいろ学び、勉強になりました。墨で描く水墨画、川の景色が綺麗で一瞬絵の中と一体化しました。小さくて可愛いお人形、和紙人形、初めて作って

難しかったが、先生に指導していただいたから上手くできました。綺麗な和紙人形も作って、水墨画も描いたし、持ち帰ることもできて嬉しかったです。

夜には、留学生が用意した文化交流パーティーに参加しました。そこで、大学長の演説を聞いて、次に各国のいろんな踊りや歌を見ながら、好きな寿司をいっぱい食べまくって、楽しい夜でした。最後に留学生支援の会によるくじ引きで豪華商品をもたらえると聞いて、運任せで息を止めながら強く念じました。“あたれ、あたれ”と言いながら、最後になってもくじが呼ばれないから、あきらめました。まあ、人生はそんなに簡単ではありませんね。

本当に楽しい一日でした、またいつかこういう交流会があったら、また行って見たいですね。それから、沢山の留学生がイベントを知らなかったと聞いて、できれば交流会の宣伝をもっとやれば、留学生の方も来るはずだと思います。日本に来ていろいろな日本文化を学んでよかったです。

どうも、ありがとうございました。

3-3

留学生と日本人学生との交流会

—各国のお茶とお菓子を通して—

内容 ★今回(第2回目)からは当会と大学の多言語・多文化教育研究センターとの共催で行われることとなり、当日の開会挨拶はセンター長北脇先生にお願いした。さらに発表国留学生と彼等をサポートする当該言語科の日本人学生との連携、メニュー選定から準備まで、多文化コミュニティー教育支援室の岡崎さんが中心になって進めてくださった。
★今回の発表はベトナム(ベトナム風ぜんざい、アボガドのジュース)、カンボジア(ポポー＝カンボジア風おかゆ、スナック、お茶)、インド(揚げ菓子、チャイ)で、いずれも美味しく好評だった。

★昼休みを利用して開催されたので、お稲荷さん、巻き寿司など軽食も用意した。

所感 ★岡崎さんのご協力により、準備段階での当

会の負担が軽減された上、サポートに当たった学生の呼びかけによって日本人学生の参加が前回より増加した。

★メニュー選定の段階で、「お茶とお菓子」に限定するのか、それ以外簡単な料理まで認めるのか、調理の手間など現実的な観点から再考の余地がある。

★限られた時間を有効に使って会の進行をスムーズにするために、調理の仕上げは会場で行うなどの工夫が必要と思われる。

★会場は明るく解放感があったが、参加者が発表者の近くに集まれるよう、テーブル、椅子のセッティングに工夫があってもよいのではないかと。

★各国の紹介が長引き、会食(試食)に移る前に午後の講義が始まったため、かなりの数の学生が昼食をとれないまま帰る場面が見られた。紹介内容の絞込みとともに、軽食を出すタイミングも難しい問題だと思われる。

★なお今後、幹事会、大学側担当者との話し合いを通じてより効果的な会にしていく予定である。(森田記)



↑ベトナム、インド、カンボジアの留学生がお茶とお菓子などを披露。それぞれが創意工夫して、この会を盛り上げました。



EXPERIENCE

4. ホームビジット&ステイ

4-1

マヤさんのウィークエンド・ステイ

会員(長興寺住職) 松下 宗柏

昨年11月29日(土)~30日(日)、シリアからの留学生、サーエグ・マヤさんが1泊2日のウィークエンド・ステイで訪れた。マヤさんは、大学で美術を専攻していて、日本の書や墨絵に興味をもち日本語を勉強し始め、トルコで行なわれたISEP選考試験に合格して来日したという学生さんである。

29日のお昼過ぎ、新宿から沼津駅にバスで到着したマヤさんを出迎えたが、お寺ならではの問題が生じていた。檀家さんに御不幸が発生したのである。夕方7時からお通夜、翌日、午前中の二つの御法事後、午後2時から御葬儀というということになった。一瞬戸惑ったが、冠婚葬祭には日常生活ではひそんでいる日本の民俗的な信仰や習慣が頭をもたげ現れる。そこで、これは日本の文化に接する好機でもあると思い直し、マヤさんの意向を確かめた。すると「ぜひ体験してみたい」との返事。まさに「禍転じて福となる」こととなったのである。

その日、富士山からの地下水が湧出する柿田川自然公園、沼津港を案内した後、いよいよお通夜ということになった。お施主さんに了解をもとめると、快諾するばかりか、「前の方に席をご用意しましょうか」という申し出、さすがに、これは御遠慮申し上げ、マヤさんは、お通夜、御葬儀と末席で参列ということになった。

翌日、朝7時からの日曜座禅会に参加、午後10、11時の御法事、午後2時からの御葬儀と、マヤさんはオブザーバー参加、その日のフルコースをこなしたのである。夕方、富士山の夕景色を紹介しようと、近くの浮島が原に出かけた。稲の刈り取りの終わった田圃の向こうで、刻々と変化する夕映えの富士山を鑑賞できた。さらに、居合わせたアマチュアカメラマンの御婦人

から、記念撮影までしてもらった。何よりのご褒美になった。そして、マヤさんはJR原駅から東京へ向け乗車、帰路についた。

マヤさんが、残してくれたシリアの絵葉書にはつぎのように記されていた。

「まつしたさん、ほんとうに、ほんとうに、こころからどうもありがとうございました。

ちよう、たのしかったですよ！ It was one of the best weekends of my life!」。



↑ 富士の裾野の様に広く日本を知りたい私！



4-2

HOME STAY

- Numazu, SHIZUOKA -

Maya Sayegh (Syria)
ISEP

The home stay at the temple in Hara was really so much interesting.

My host Matsusita san, was so generous and friendly and we talked about lots of things and learned new things.

As well, I was able to see the area around Numazu, went to a park, to the sea side and to a spring.

Also I had the chance to take part in a Zen-Buddhist meditation which was so much interesting.

I also went to a funeral service(葬儀) and funeral eve service (お通夜), as well as to memorial service(法事) in the temple.

The home stay offered me the opportunity of new experiences those were so interesting and rich and it was great as it was the first time.

The Mount Fuji also was so clear and beautiful.

Thank you.

VOICE

5. 留学生の声

5-1

日本は第二の故郷

地域文化研究科修士課程修了
北九州大学にて博士号取得
謝 億栄 (台湾)

私は、2006年9月にはまだ留学生であったのに、2008年には教員になっており、人生は不思議なものであると改めて実感しています。

十数年前に、外国語で仕事につきたいと考えたことが留学に繋がり、縁があって、1993年日本に留学することになりました。当初日本語学校で日本語を学んでいましたが、更に日本語能力を高めたいと重い、大学に進学することを考えました。授業料が安い国公立大学で、日本語研究で著名な先生方がおられ、東京に近いと条件を絞ると東京外国語大学が理想的な大学として残りました。そこで、外語大に進学しようと理想を高く掲げましたが現実には厳しく、3度目の入学試験でやっと合格しました。34歳になって、外語の新入生になる夢が現実となり、それが私にとって人生の新

しい転機となりました。

入学して強い印象を受けたのは、先生方が他の学識の深さと学問を追及する真剣な姿勢でした。おかげで私は語学や日本文化だけの学問ではなく、学問を究める態度まで学ぶことが出来ました。また、威厳ある先生方も、実は仏心を持っておられ、私たち学生に対し、厳しい中にも優しく接してくださいました。学問に対する情熱と学生に対する親心を持った先生方の姿は私だけではなく、留学生皆の心に刻まれていると思います。私個人としては、サークル活動に参加し、毎年恒例の見学旅行やスキー教室にも必ず参加し、日本の津々浦々へ足を伸ばし、日本文化に接したことが良い思い出として残っています。

よく日本人は曖昧だといわれていますが、それは、日本人が持つ先方に迷惑を掛けないという気持を、他の国の人々が察知していないことに生じた誤解であると思います。さまざまな日本人の方々との出会いの中で、言葉や文化やモノに対する考え方の違いにぶつかることがしばしばありました。日々が異文化との接触の現場でしたが、試行錯誤を繰り返しているうちに日本に対する理解が深くなりました。

留学生活は「山あり、谷あり」で、苦しみもあれば、幸せなこともありました。そして、長年の留学生活を経て、知らず知らずに日本が第二の故郷のようになりました。大学で習ったこと、日常生活を通じて日本各地の文化風習や人情を経験したことが私に影響を与えています。現在台湾の大学で日本語や日本文化を教えています。その際日本での私自身の実体験が大変や役に立っています。

最後になりましたが、東京外国語大学がこれからさらなる発展をされますよう心から願っております。

5-2

就職活動報告

留学生より日本での就職について報告が届きました。当会では、就職活動を直接支援することはありませんが、日本での就職を望む留学生の志を支え、見守っていきたいと考えております。以下、王さんの就職決定までのがんばりをお届けします。

就職活動を振り返って

日本課程

王 晶晶 (中国)

大学3年の2月から頻繁に説明会に参加した。4月末に中小企業一社から内々定をもらったが、それ以外の大手メーカーの面接では次々に落とされた。やはり自己分析がしっかりできず、そして自分が何をやりたいか、またどんな貢献ができるか相手を説得できなかったからだと思う。

非常に長い就職活動で、大変だった。エントリーシートは日本人の知り合いに添削してもらうようになってから、通るようになった。

しかし、筆記試験で落ちる日が続いた。参考書やネットを活用して努力した結果、筆記試験は通れるようになった。ところが、4月の頭ごろ、一次面接がほとんどだめになって、自信が持てなくなり、悩んでいた。友人や先生に相談にのってもらって、しっかり自己分析ができてから、面接がうまく行くようになった。けれども、それでも落とされることがあり、本当につらかった。妥協せずに失敗することに反省して経験を重ねてきたこそ、最後になって某企業から内々定をもらえたと思う。

しっかり自己分析ができて、堂々と面接に臨むとよいと思う。OB・OG 訪問も大事である。後は誠実さ、素直さ、自信を持つことだと思う。

内定までの道のり

—就職を意識した時期 大学3年11月

—インターンシップへの参加 有

—エントリーシートを出したところ 30社

—面接まで進んだところ 19社

—最終面接まで進んだところ 4社

—面接試験で工夫したこと やりたいこと 貢献度

素直さ 元気さ 笑顔

—筆記試験対策や工夫したこと たくさん練習した

—活用した図書 就職課にあった冊子など

—絞った業界 メーカー

—希望職種 営業、マーケティング、資材調達

—面接の注意事項 大きな声、熱意を伝える

- 以下、私の考える面接への臨み方をまとめた。
- 志望動機、学生時代がんばったこと、自己PR、やりたいこと、どうしてそれをやりたいかはどこでも聞かれるから、頭の中に整理しておくこと。
 - どんな質問が聞かれても動揺しない自信が大切だ
 - 集団面接の時はより大きな声で他人に視線を配ること。
 - グループディスカッション 傾聴力 リーダーシップ
 - 就職活動の軸を立てること。
 - 会社を選ばれるのではなく、会社を選ぶという姿勢で臨む。
 - やりたい仕事の内容をきちんと調べる。
 - 毎日思考する習慣を培うこと。
 - 失敗しても落ちこまないでありのままの自分を出すこと。(以上)

VOICE

6. 会員の声

6-1

支援の輪

会員（幹事）田中 武夫

ふとしたことから東京外国語大学留学生支援の会会員になり、ささやかながら運営の一部を時たまお手伝いするようになってまだ間がありませんが、内情を知る機会が増えるにつれ、この会は小規模ながら心地よくまとまったニートな組織だと感じ入っています。

私が社会奉仕団体やボランティア活動に関わるようになってかれこれ20年になります。初めは米国駐在時代に企業側の立場からでしたが、そのうち個人としても関心を持つようになりました。縁あって知的発達障害の人たちの自立や社会参加を後押しするスペシャルオリンピックスという国際的ボランティア活動に参加し、その日常運営や世界大会の企画・資金集めから実施全般の責任の一端を担うようになったことから、同様の団体の活動をつぶさに見る機会が増え、何十にも及ぶ任意団体や法人団体の設立にも関わってきました。そ

うした活動への支援を呼びかける相手は主として企業や行政や一般市民ですが、相互協力や支援の提供を通じて、同様の活動をしている組織との付き合いも深まります。

NGO や NPO といわれる非営利の団体は、社会的に意義のある目的や理念を掲げてすばらしい活動をしています。それぞれに問題や悩みは多く、ほぼ総ての団体に共通するものの一つは資金不足です。人（スタッフ）不足、物不足、サポーター不足、行政の支援不足、社会の理解不足などなど、枚挙にいとまない不足だらけですが、資金不足が一番深刻です。社会的に有意義な非営利団体の事業収益や外部からの寄付行為への免税措置等で手厚く支える米国など先進諸国の社会的インフラとは比べようも無い日本の現状では、さらに悩みは深いものがあります。限られた支援者と熱い思いで活動を続ける個人の奉仕だけでは支えきれないものがあります。

そして東外大留学生支援の会もこと財政難については例外ではありません。われわれ会員が口コミで一人でも会員を増やし、年会費の納入率を高め、会費納入の際にはたとえわずかでも寄付金も送るなどして、支援の輪を広めようではありませんか。

♪ ♪♪ ☆ ♪ ♪♪ ☆ ♪ ♪♪ ☆ ♪

新規ご入会いただきありがとうございます

(平成20年10月21日～平成21年2月10日分)

池田恵利子 大工原紀久雄 前田友里 三宅杏子
(敬称略)

ご寄付の御礼

次の方々からご寄付をいただきました。ご協力いただきましありがとうございます。

(平成20年10月21日～平成21年2月10日分)

会員寄付者

■一般寄付

池端雪浦 碓氷春男 大谷達之 奥澤清子

喜田美樹 邱淑珍 小磯好成 小島照恵
五島大介 佐々木壽 佐藤桂子 下田菊美
頼母木久代 蔦木順子 中島正隆 中村博
早川幸位 日高京子 松井清治 峯岸幸次
(敬称略)

■緊急貸付基金

井口英子 住友佳代子 大工原紀久雄 田中啓雍
千吉良繁子 水上ますみ 森健裕
(敬称略)

非会員寄付者

■一般寄付 按田美那子 (敬称略)

万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は当会までお知らせ下されれば幸いです。

ACTIVITIES

6. これからの活動

1

2009年3月20日(金)
鎌倉見学

日時 3月20日(金・春分の日祝日)
募集人数 留学生30名、日本人学生10名
コース 新宿小田急ー藤沢乗り換え鎌倉ー
八幡宮ー昼食ー建長寺ー亀ヶ谷ー
そのままー江ノ電で長谷寺ー大仏ー
鎌倉(コースは変更する場合があります)

参加ご希望の方は、当会連絡室、または下記までご連絡下さい。042-330-5761(梅田)

参加費 3,500円(会員の方のご参加は実費)
お願い 前日までのキャンセルは連絡室、または下記までご連絡下さい。
042-330-5761(梅田)
080-3080-3007(中嶋)

2

第2回春期バザー開催

ご協力いただき、留学生に毎回大変好評いただいております春期(4月期)バザー開催に向けて、下記の要領にてバザー用品送付受付期日をご確認の上、ご準備、ご手配いただきたくお願いを申し上げます。

バザー開催期間

4月27日(月)～4月30日(木)

場所 留学生支援の会連絡室

バザー用品受付

4月20日(月)～4月24日(金)

お送りいただきたい物品

■各種辞書、日本文化・歴史に関する書籍、文学作品、日本語教育、日本語学習関連書籍など

■台所用品(小型の鍋、フライパン、電気炊飯器、レンジ、トースターなど)

■日常生活用品(自転車、タオル、毛布、布団、食器、衣類、電気製品、保存のきく食品など)

※衣類や布ものは、新品同様を希望

■国際交流事業の一環としての「着物・着付け」用男性羽織・袴など振袖一式

※古着可、ただし使用可能なもの

送付先

東京外国語大学留学生課気付
東京外国語大学留学生支援の会 住所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL042-330-5759


送料 恐れ入りますが、従来通り送料のご負担をお願いいたします。ご利用の場合は、お手数ですが

「午後便」をご指定下さい。


会費納入をお忘れの方、平成 20 年度分の納入をお願い申し上げます。

現在納入率 42.18%

3 月 31 日 (火) まで納入受付



Spring has come...
New friends will join us.



通常 2 月に発刊しております本会報ですが、今回事情により発行が遅れました事、お詫び申し上げます。

<お問い合わせ先>

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
東京外国語大学 留学生課気付 (谷川、梅田)

TEL : 042-330-5759

FAX : 042-330-5762

E-mail : tufs-issa@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

©Copyright 2009, TUFUS International Student Support Association